古今和歌六帖標注

六

特別
イ4
3163
97(6)

貴
14
3163
97(6)

古今和歌六帖第六

草

春たちぬ　こゑ乃草
下草　ふこ草
なでしこ　秋草
ちのちた　きちこう
ふさのかう　さうび
多たま　かきつばた
きちきち　ひ―
あ―　うきぐ
ひさぐ

秋乃草
雜草
女郎花
藤ゝ
ほうこん
かるかや
ふち
ぬなわ
ひき草

冬の草
山ぶし
ちゝき
菊
ふを
かま
花ゝ
ゑぬなわ
ゑ草

志のぶま　　さをしか　　なぎ
たで　　むぐら　　せま
さねづら　　ほをたぐら　　玉づら
はぎ　　このまび　　あさがほ
きく　　おさぎ　　わらび　　なぐさる
ゆま　　あ井　　まさきづら　　くず
心たち草　　さげ　　さゝ　　ひるげ
見くさ　　ふも草　　おけ　　あふひ
志ず　　　　　　　　　　いち

虫

むし　　せみ　　夏虫　　きりぎす

木

まつ虫　　きぶむし　　ひぐらし　　ほたる
ちゝあり　　くも　　ちゝふ

木

ゑの草　　志ゝを　　そま　　秋の草
まつ　　ゝ草　　まゆ　　このへで
梅　　この花　　井　　たうな
ゑの梅　　柳　　楊
あさゝ楊　　花ざくら　　山ざくら　　屋楊
ひざくら　　藤　　たちばな　　あへぬ花
志ひ　　ざくろ　　梨　　山ぶし
もゝ　　きも　　かうめ　　くるこ

ちぎ　むかは　かづら
ぶふの　あゐち　くぬぎ
はぎき　ゐ〜さ　なごみがを
つゝ　ぶはぎ　くさ
ちさはぎ　ちきゝ　ふぢさ
ゆづる葉　かゝこの　さねき

鳥

とり　さゐちどり　かひ
つる　かり　ひばり
ちどり　呼る鳥　雲
さゝ　さこどり　ちぎ
もず　ゐなか　かゝ葉
つぐゝゝも　このさゝぎ

恋のうた

万十 赤人集 たづ赤 さびきし赤 たかの大浦 たづ赤 ほみちぐまきける赤 のちへよつもりぬ

つゝゆる

拾春 家 乃べこれば葉つゝうらうべこそ垣ぬ拾家のうへも変めちるけき

こゝ祢

古今恋五 伊勢 あだれの野べとなりぬとも たびきぐ もえてもまたもまさるものを

古恋一 忠峯 家 かたそ野のあるまをとりみて生ぎるくまのとつふこゝろ忘れぬ 十七古

業平

古今恋二 つゝみき 秋の野をこぶれてさけるはぎのもと 下同

新十恋一 伊 寝カヌ

うゝろ〳〵祢よみよゝ人の法ぞんこゝをゝぞ思ふ

すゝゝまこ野べのまゝ思ひきぐるゝ種を和をおもふとろ武

たぐゝ

新古春上　家　金葉　朗　古本重之集　卅

やうやくもるはるのはるのはるのあるのひかりまちそめぬ

夏　草

万十　拾憲三人丸　家　赤人集

人さはに夏野の草のしげくとも妹と寝ぬ夜はたづさはりなむ

同　人丸集　赤人集

夏の野に草のしげくてこるらるに刈そてれども思ひ乱れて

新古憲一　家

見渡せば山下もえぎきるるさのふるくもゐを見こそ侍るれ

新續古夏

夏げさのみ日ざしまさる時なれば刈りそめてのちの人のなきを

古憲四　古本集

枯そてんさとしもびさしてるふるくも人をたのもうるる

古物名　古本集

ひとさまにあふようふかるるはるのあふてそれば初され

古物名　古本集

夏草のうへもさびれるはるのあはれ

朗恒集

うはさはの夏のこころはさるあくにふるくも人をたのみけるうれ

古今春下　小野小町

夏草のもとはうつろふなりけるはるのこころはあるまじきなり

つれづれとあめきてまたるるものあされやどに夏草ありあひよるかな

夏げ草

同憲三　業平朝臣

かきくらしあめのやまにまどひあるき夏草うつるとはよひとさぶめく

書紀景行紀云五十七年冬十月令諸國興田部屯倉

後拾夏　新朗　家

夏草のもとはうつろふなりけるはるのあはれ　朗　後家　後朗　後

なつくさの刈りよりよりはるのあはれ

万十三　夫雜三路

ちくさのもとはあこがれやけ路の夏草をあつくるるも

秋　乃　草

後秋下元方　大和

石上ふるのこすもあれはそこにたまりそれ

同秋中之雜四　伊勢　家

こすもあるきはるはあるはるはるはるこがれぬる

業平　後家　後　後

古今春下　よみ人しらず

まくすきたまびくやまのさくらばなうつろふとやをうつりゆく

同秋下　よみ人しらず

いづくもをうつりきてあるのぞんあきの野をうつろふとそをうつる草

新古今秋上　是則

うゑがれのあさぢのまつかるゝやた

下同

拾遺戀一　貫之

あきかぜ〳〵けづれぶつるおちぶ〳〵の

下同

第二已出　咏の野ゝよくあてさよ[illegible]るこのをれて物と思ふこゝろ形

万八　石川賀係女郎　かしさぶとあらさぶとあしあ[illegible]ぶ万

見ぶとちあるぶふ物ハ住〳〵きをこのうれぶおるぶ無〳〵よ

みくさ　要こく

第二已出　芋村のしぶをぶら〳〵と思べやみ雪のこさと人のこるも

つ[illegible]　法師

古今　つゝぶまぬくまぬきぬれどみこのうをす人ハ言伝もきぬ吉

第二已出　山里ハみぶびさまさりこる人ものもれぬと思べぶ

見すれぬのうちハみこのはすしくをとふるあうこう

下　茅

人丸

万十　系谷の新はし〳〵こるすゆぶも忘ぶきぶれどまぶあひぶ

続千載夏　躬恒

ゑゑゝハりぶふふくあゝゆけど

かれて〳〵人ものをぬやどな

夕の伝系こ見引の山氏伝ものの

川あ伝系あぶゝあるたぶひこ

万四　笠女郎　夫雑十旦蔡草又　系谷の夕伝系ふ〳〵こゝのけぬぶゝと形おもわ西この形ゝ万

第二已出　大和　桐本の杜はとゝ系ふもひこをとつのこんと形みぶ〳〵

第二已出　大芸本の森のゝ下芋老ぬまぶ弱もすあぶ刈人もな〳〵

さうはなこ

第二已出　人ものくたこのぶぶなゝ大芸本の杜の下ものこ系ふ系ぶ

万十一　新勅撰　夫雑十廉古本人丸集　さくゝものをのはとゝ下芋露〳〵あくぶのゝ〳〵て出ゝ人形ハものこ

同七　夫雑四野　あさ新　まものをおもふをこ夫　まぶ万夫　はそを夫　いゆけを万

ちくゝハ左右ぜんを万

にてぶさ

同十六　しる〳〵ゝをこもるにのこをはふここのこをはきこのこよさぬ〳〵こゝゝも

同十土　芋原の中はふこぶさにたくゝふふをこ〳〵て人よものこる形

夫雑十人丸　や夫　る夫

書紀齊明紀御製云伊喩之之乎都
那遇何播祢能倭柯矩婆能云云
万葉四　坂上郎女
青山乎横切雲之灼然吾共咲為而
人二所知名

藏王集ハ菊の異名を百指まく
ありされど契沖ゴ一稿ふらぎ〜びた
えずはそあるそをいまゆゑんや
いるよろし」
契沖云を何ぞハ相きり結びてを向
るる万葉第二有馬皇子岩代の濱
松ぐさをひき結びてまゆ結るも
神のを向ある〜」
又云さ〜もぐさ則艾云或人云よ
ぎハ唐ぎ名もぐさハもえまの
義ん今指ずるふよりぎハ移にある
時の名もぐさハ〜製〜たる時の
名とらもぐ論ある〜

万二十 風をあびくほのぼのとみこそのにてとろすもおもひ出るこの礼 も方

雜の草

同七 拾壹五 新撰 夫雜八磯神 塩こそば入めるる磯の草もあるまやこそらくすくまくこそらくみおわき 新 るめ 万日神 ふる日神 八神

孤あ〜さ

つぐよもちよあめやねあ〜またれやさま〜みのらいけ

もく草 よ工

万二十 生部足国 ちく〜ちぐ家のもりへのもよそ正拾いでませ高いくるまで き方

手向草

同一 又九 新古雜中 夫雜十 ちぐの浦松ぐのくま向るいくよまでるろくまのへめらん のき万九 八万九

さ〜もぐさ

袖二和 あぢきなやいぐきのみはさ〜も草おのぐ思ひよみとぐ〜はく く和

六之三

重之集
さんきやなこまふ物る物くれ
おのがおもひよみをやなくら」
後拾遺戀一　藤原實方朝臣
かくとぐふえやいつきのさ〜もそ
さ〜も草〜ゆるおもひを」
新古今釋教　はるの花世まの花ら
ちくふものもあめちぐふのさ〜もそ
られよめ中おあ〜んぐりる」
和名抄草類云唐韻云芫漢抄云
可以為席者也
同書云黄連和名加末久佐　久さ〜童蒙抄
七るも かくもぐさハ黄連〜〜も又
能因歌枕綺語抄等ハ蓮をいふと
ありされど別おさ〜もぐさとときあれ
ど黄連といふと正〜〜〜」
藻塩草八草の條ふつれあ〜のをの
家ふくても出あ〜ふ之〜又蓮の條
ふ法まあ〜ふそちちの異名くるる昭法
抜するふ蓮の異名つまふ〜草ハ強
ふてつまあ〜まあるで〜つれあ〜ふ
すべて面つくうけひらぬまる詞ん
万葉十六ふ新田部親王蓮を見そい
ちくめで給ひをある婦人面つく

夫雜十 よ〜〜〜ば 袖二和 おちりけんくらこそさ
袖二和 ちるほざうよいぶきの山ぬさ〜も草さ〜も草ぬ
夫雜十 よ〜〜ぐ 袖二和 ぢ夫 おもつけや志めつば系の志ぬさ〜もらぬ
ま袖 さ〜もおもふぬこそやまあぬ袖 おのぐおもひみもそこそうひ秋

人麿

万十四 夫雜六沼 よ〜〜〜ば み万夫 かんつけのいあ〜の沼ぬおるる草と和よ〜ハ今こそまされ

かくもぐさ

童
うりきるみぎぐれのかくも草果ぢ名もアとぐ〜ひ恋ちん

つれなく草

夫雜五池 よ〜〜〜ば
そ〜ぬとへてちるるのくそんうまの池さ生こふ法遊寺の子

さうりくさ

人まろ

万十一作者未詳 さ草あ〜なすぐ〜きるるまの人ふ秋さるぬ系さるおもひ
ふぬと万

うけひぬさまに戯むれて 勝間田之池者我知蓮無然言君之鬚無如之 とよめるうたあり此哥によりて蓮をつれなしぐさといふなるべし さまで此帖別にえらみたちすぢを出せれば がつれなしぐさにもまの形なるべしと思ふ人あるべけれどさもくさとやもぎを別に出し又こもとかつみかるやとかやぬなハと様ぬなをもと別に出せるがぬし」若りくさハ仙覚も若布も皆藺の異名なりといへり和名抄草類云玉篇云藺 和名鳥辨色立 成云鷺尻刺 似莞細堅宜為席」此清輔すなはち藺つりすげハ藺つゝ草の語なるべし」八雲御抄草部に祢つこ草みつりとよめる藻塩草の草の條にさきを祢つこ草三浦かよめりと云る崎の條に三浦崎 奥州 志ハつきのミうらさきなる祢つこ草あひミずハいかゞあれこひめやも とも此哥ハ万葉十四相聞の哥之 奥州とあるハあやまりし猶山拾葉にも 相模とありあれ正しかるべし」和名抄草類云款冬 和名夜末不々木 一云夜末布木 萬葉集云山吹花かく款冬と山吹と

祢つこ草

万十四 夫雑八崎よミ人しらず 如本

しばつきのみうらさきなる祢つこ草あひ見ずあらばあれこひめやも

万十一 作者未詳 古本人丸集 夫雑四野よミ人しらず

くれなゐのあさはの野らにかる草のつかのまも我を忘るな

山ぶき

古春下よミ人しらず 家持集 猿丸集

今もかも咲匂ふらむたちばなの小嶋の崎の山ぶきの花

同 よミ人しらず

山ぶきハあやなゝ咲そ花見んと植てし君がこよひ来なくに

万八 厚見王 新古春下 新撰 夫春六

かはづなく神なび川に影見えて今や咲らん山ぶきの花

おともなくきえもをらん吉野川の底まで咲る山吹の

貫之

うつる影みても思ふぞ水底に 山吹の花

性あらで山ぶきちりぬ苔の上に あはれまし

齋宮女御集

八重ながら色もありけり山吹の下よりいづる井手の清水

清ゆき

續後春下 家

なかれくる性のなり見ゆる山ぶきの花にかへるやたかたの

家

世のなかにも咲ぬ花もなき山吹の性ぞこゝろにかなへる宿

山吹の花ハちりとも咲べきを我ぬる宿の春の惜くも

貫之

古春下 新撰

吉野河岸の山ぶき吹風にそこの影さへうつろひにけり

つらゆき

夫春六 古本集

春ふかき枝さしひちて神なびの河べに匂ふやまぶきの花

京本躬恒集

あしびきの山のやまぶき咲にけりさりはあかぬ人もあらじ

躬恒

古今戀三　よみ人しらず
山しなの音羽の滝のおとにのみ人のしるべくわがこひめやも

亭　家
ちる浮きるはあかれど数ならぬ花よりをまげて捨めつる

續千春下よみ人しらず　古本集
指のみえつゝぞ思ふ山家ものいほは雪にあらなし

代春下よみ人しらず　古本集
いつで見れぬまんと思ひし山桜の花のさかりにあひにけるかな

大
ま袖とも見みやまの雲こそ惹しられ指ちらうき山桜の花

つが宿のや山吹のちるをこそ春をとゞむるぞ惜しき花

古春下よみ人しらず　新撰　家持集　猿丸集
春雨ににほへる色もあかなくに香さへなつかし山吹の花

第五已出
あすしおべば八重山吹ぞうつりける滝てちれるゝ色がつらさに

山吹の花なくこそあらしあふ人のきるべく惜ありやまで

なでしこ　家持

万八　新續古夏
わがやどの撫子の花咲にけり手おりてひとめみせんこもがも

やかもち

万葉廿　大伴家持
比佐可多乃安米波布里之久奈弖之故我伊夜波都波奈爾故非之伎和我勢

後撰夏　よみ人しらず
床なれし花をとゞむることあらし
さかりも月日もみじかゝらなん

万八　後夏よみ人しらず
わがやどにまきしなでしこいつしかも花にさかなんよそへてみん

同廿　夫夏三　家持
わがやどのなでしこちらめやもいや初花に咲はますとも

同三　家持
撫子のその花にもが朝なさな手にとりもちて恋ぬ日なからん

貫之

新撰　家
床なつの花をしみればおきてぬる月日は数もしられざりけり

つらゆき

家
あかずけく色をそめつゝ春秋をまつまでのこそ咲なる花

貫之

家
うゑる時なき宿にあればやとこなつを植てこそそめ

素性

古秋上　寛　新万　家　河夕霧
われのみやあはれとおもはんきりぎりすなくゆふかげの大和なでしこ

古夏ミ朝
[illegible]

古本集
[illegible]

拾夏家
いづこまも[illegible]
く拾家

家
[illegible]

伊勢集
[illegible]

古意四よミ人しらず新撰
[illegible]

朗貫之
[illegible]

みかの原

伊勢

いせ

[illegible]

戒仙法師
[illegible]

後撰總三

和名抄草類云鹿鳴草爾雅集註云
[illegible]

家持集
[illegible]

秋ちぐ

とーゆな

古秋上 新方家
[illegible]

播磨
[illegible]

素性

[illegible]

女のつくるやれる

拾雑秋女 貫之集
[illegible]

やのもち 万葉七ニ
[illegible]

万八 大伴田村大嬢 風意四よミ人しらず
[illegible]

家持

同
[illegible]

万葉十八
波里夫久路已礼波多婆利奴須理
夫久路伊麻婆衣天之可於吉奈佐
備勢年

万八 家持集
ゆきのぬきけさでたぎつこの家
ゆたに万
秋萩のうへはふるはなまだら万
ゆきもよし大ゐ
人まろ

同八
雲上雨鳴都流鴈乃寒苗芽子乃下
葉者黄變可毛

古秋上 人丸集
ゆきのぬきけさでたぎつこの家
秋萩のうへはふるはなまだら万
ゆきもよし大ゐ
人まろ

拾雑秋 新万 新撰 古本人丸集
くもゐなかねはなくなる萩のしたもみぢはてにけり
拾京
平城
たふらのみてぐ 桓武帝皇子
新万古

同 古本家持集
萩のしたもみぢはてにけりとまびけぬこの人なりけりよそあらぬみて
みて
うく

家
たかのうへはあまくもあれど人まもる萩の下葉はあらがめられる
家

同
あまくもる萩のほやはなのさきてみづるをとなるこの家
ざり家
同
ものもはなはなつてふることしつれ下葉はあまのまをみてをる
ざり家
同
小男鹿のいでたちぬ秋さきの旬ふけもつまをこひつつ家
つまをこひつつ家

古今雑上
いそのかみふるのなかみちもとがはの
もとにこそしらめ人をこそしらめ

古秋上 童
秋萩のふるえをみるにつけてこそ
ゆきもよし大ゐ
とすれば
とすれやはする童
とすれば

人丸集
あが月をきみにあてつつ
ゆきてちりぬ
秋萩

万二号 削皇子 古本猿丸集
秋萩をしのぎてみるにつけてこそ
ゆきもよし大ゐ
万古

大伴坂上郎女

同八 夫秋二
いもがめにあれはこの月
大和
のもとべの万
秋萩

ふこのやま

後秋中
いくばくもなくて散らむ
月おを後
ぐく
秋萩をみるべきかぎり

第五巻出
秋の野のもみぢ葉
秋萩をおもふ風もなくてこそ
ちるもをしけれ
ちれば
ちるもをしけれ

ちれひらの事れ

後撰秋中
白露の上はつれなくおきゐつゝ萩の下葉の色をこそ見れ　よみ人しらず

拾雑下
えだハうへよりおつれども秋の下葉のまづもみぢせむ
躬恒

同えし家
さを鹿のしがらみふせる秋萩ハ下葉や上に成かへるらん
みつね

続千秋上 雲秋上
秋萩の下葉がくれて鳴鹿の涙や露を色に染らむ
興風

拾雑下 忠岑集
秋萩はまづさす枝よりうつろふを露のわくとは思ひけるかな
たゞみね

秋萩の下葉よりしもうつろへハもとより物を思ふなるらん
素性

萩がえだ色なる枝をめでてぞ折る人やおもふらん

万葉十五
毛美知婆能知良布山邊由許具布祢乃爾保比爾米佀呈伊佀呈伎爾家理

ちゝのうつ蝉ハむなしといふことゝ万葉三ニ虚蟬之代者無常跡とも又十九ニ宇都世美能常無見者ともそのほかもあまた出て皆むなしきことに用ゐる詞なれハかくぞよめるなり

伊勢物語
ひとなまめきたる女すめるありけり云々

大和物語
まづきするひとのたゝふのたづきまのあはれしがまし あだなるや世の中

拾秋 新撰 家 帝朗
うつろはむ事だにをしき秋萩をおれぬばかりもおける露かな
いせ

女郎花

万千 新続古秋上八九 夫秋二 雲秋上大九 家
手にとれバ袖さへ匂ふ女郎花此白露にちらまくもをし

古誹諧 遍昭 家
あきの野になまめきたてる女郎花あなかしがまし花も一時

同秋上 新万 朱
女郎花秋の野風にうちなびき心ひとつを誰によすらん
左大臣 時平公 昭宣公男

同 家 古今 宗于集
秋の野にやどりハすべし女郎花名をむつまじみ旅ならなくに
としゆき

同 新撰
ひきなでて見るべき花をたをりてぞ秋にはあはせぬ物ゆゑ
三條右大臣

拾遺秋　よしのぶ

[illegible]

古秋上　寛　新万　新撰朗

[illegible]

小野宮　参議実守男

[illegible]

かまくらの大臣　惟喬親王御子

同

[illegible]

遍昭

同家

[illegible]

つくばやま

後秋中

[illegible]

貫之

古秋上

[illegible]

法師ゆき

後撰春下　清原深養父

[illegible]

後秋中　新万　新勅秋上

[illegible]

同

[illegible]

拾遺秋　よしのぶ

[illegible]

家

[illegible]

おなし人

拾秋　家

[illegible]

おなし人

新拾秋　家

[illegible]

古今雑上　とものり

[illegible]

古本集

[illegible]

古秋上

[illegible]

同　家

[illegible]

みつね

古今秋上　定方朝臣
秋ならであふことかたき女郎花あまの河原におひぬものゆゑ

新拾遺秋上　清原元輔
なべてさく花の中にもをみなへしおほかるのべハまぎるゝなりけり

こゝ

後秋中
桐様に似たる葉ふみ分けをみなへし秋よりほかにあふこともがな（ときもなし 後）

躬恒

家
めぬれぶつきなく折りぬ女郎花人忘れずぞつまんとハおもふ（ちらんと思ふ 家）

忠つね

古秋上　新万　朱　古本集
人の見ることやくるしき女郎花秋霧にのみ立ちかくるらん（きこふこえんことやかなしき　新万）

秋きこの　せイ

後秋中　家
をるからに家名ハたちぬ女郎花いざ同じくハ花々にみむ（おなじくに 後）

古秋上　平定文
花にあかで何かへるらん女郎花おほかる野べにねなましものを

素性

秋なくへし色にもあるか松虫を下にすまして住ませよかし

たひらかにまきよ　雅望親王御子

後撰
枝もなく人にをらるゝ女郎花ねをだにのこせ植ゑし我がため

同秋中　枇杷大臣　伊勢集
をみなへし折れる枝のふしごとに過ぎにし君を思ひ出やせし

伊勢

同　家
女郎花をりも折らずもいにしへをさらにかくべきものならなくに

あだなる名の侯萩のをとこへしたゝぬなるまじ秋をあまはけり

ふるのいまみち

古秋上
女郎花うしと見つゝぞ行過ぐる男山にしたてりと思へば

玉秋上　新万　代秋上　朱
きゝやすの来る野のめなきをあるも葉までかゝれる

貫之

古物名　拾雑秋
小倉山みねたちならし鳴く鹿のへにきん秋を知る人ぞなき

此うた玉葉にも万代にも昌泰元年亭子院哥合に女郎花をとあり今流布せる哥合にハ此歌ありそれのみならず新撰万葉にも此うた入らず又朱雀院女郎花合に入る哥ありてかゝしいふよしといへど新撰万葉ハ寛平五年の撰なれば自序に

此うた哥合のうち流布本にはなし今ハ工本にておぎなへり

みせ給ひければ昌泰元年より五年までに又朱雀院哥合ハそれるか
におくれて四十年ばかり此歌の
入べきよしなし

家持集
松かげのあさぢがうへのしら露を
下同

後秋中よみ人しらず 朱家
秋の野の露におかるゝ女郎花はらふ人なみぬれつゝやへん
風工　やどさるらん 後朱　ふびつゞふる家
おきかぜ

同 奥風集
をみなへし花の色あざあれぞ秋まのゝ社あひみえられ
さくき

百 新古秋上 夫秋二 家
さをしかの入野の薄初尾花いつしかいもが手枕をせん
いもが 万新家　手枕に 万新夫家
人麿

同八家持 後秋中よみ人しらず 冊後
わがやどのをばながうへの白露をけさずて玉にぬくものにもが
やかもち

同八夫雑二山 近江
いかご山のべに咲たる萩みれば君が家なる尾花しおもほゆ
萩 万イ夫　しぞ思ほゆ 万夫
金村

家
野をみればおふる薄のくさまで穂に出ぬ恋もするかな
くさ家
おなじ人

同
花薄ほにはおけども和雲の心はこえまで消ぬべくなり
おなじ人

同
めとめてぞみるべかりける花すゝきまねくらんや秋のわかるゝ道
花すゝき家　八家
おなじく

同
まねくとてきつるかひなく花薄ほに出て風のそよぐなりけり
おなじ人

同
いつとても人やはうらむ花すゝきなどか秋しも穂には出らん
躬恒

古今戀一
人めもる我かはあやな花すゝきなどかほに出てこひずしもあらん
とみぞ

古本集
るとせのべにへぬなし花薄これかきまねく袖のとれぞ
ふき古　と古
きゝとらん人よりハあへで秋風になびくもと花すゝきぞやまゝむ
在原のむねやな 業平朝臣男

古秋上 寛 新万 後六
秋の野に笹の葉分け置く露の袖とこぼるる

いせ

伊勢集
秋の野に笹の葉分けて置く露の袖とこぼるる

古歌五首 伊勢集
おほしくも秋の日ぐらし伊勢集
たのしうほに出て人に法だれ

同哀傷
つるが枝に一村すぎし雲の音に聞きやすけ

新古秋上 朝貫之
小倉山ふもとの野べに花咲かば

古秋上 後六
人ぬしは植ゑずとも花の種は生ひぬべし

大和物語
秋風のこころやつくし花すすき

下同
拾遺戀二 よしみねのむねさだ
よそにのみあはれとぞ思ふ

不のふるこそ人ぬしなれ

続古秋上 雲秋上
さまざまの風にあひてみだるるは

さぶ文

古秋上 後六
人ぬしは植ゑずとも花の種は生ひぬべし

新勅撰戀一 藤原仲實朝臣
あはれとのかうの小野に花すすき

下同
万葉廿 長歌
波呂波呂甫伊弊乎於毛比涅於比
曽能尓乃曽與等奈流麻涅云云

新古今戀三 安法法師女
よのつねに秋風ふくとをきのさと

そよそよぞ人の恋しき

万八 続後拾雑上 よしみねの
あきつけば尾花がもとの露ぞ

され続
きのきぬ

同
見づ〜しきこがの形の花の葉分

日置長枝 ひおきのながきぶむすめ 傳未詳
いかにかのひろ野の

同七
ひとまろ
妹ごのとあうひの花の葉分しるなびけ吉野の

夫秋二 薄 よしみねの
まもるれわきめや宣はれ吉野の

おいぬ
老てぬ夫
秋風のやく吹のべに篠吉は種は出ぬ恋いくるしうきる

吉野すすきかるにぞ

続後撰秋上 代秋上 家 を家
いつもきく風にふきみだ

ふ続
秋をまねくといそぐそとそとへく

貫之

秋ぞ

拾秋 新撰 家 東鶏集

おあーじく

古本集

後憲四中務 家

後秋上よくーじ

続後拾秋上 嵯峨天皇御製 大

第二帖 原

名ゑ おへいづれもあーあき秋

あでーおあーーうあるみが系

此帖 古も

五月 まつぬまふ生るとろぐもの

そゑーーとれもいらでどそ見よ

類聚國史云平城天皇大同二年九月乙巳幸神泉苑琴歌間奏云云于

時皇太弟頌歌云

美耶比度乃曽能可迩米豆留布智

波賀麻岐美能於保世能多乎利太

流祁布

上和之同

表理比度能已已呂乃麻用真布智

波賀麻宇倍伊呂布賀久尓保比多

利久利

群臣俱称万歳

同 平城天皇御製 同ふゑよ大

続

なーーみすど

敏行

同 新朝

古秋上 新万 家

あきる新

古

同朗 家

古朗

古俳諧撰集 寛 新万

むー寛

新

お形ーく

和名抄草類云四聲字苑云菊和名加波良興毛岐一云可波良日精草也俗云本音之重日精草也俗云本音之重とあれども和名岐久とゝゝ又ふるくより俗のやうあれど醫心方藥名部

ふるもきくとのをとみてらゝもぎかさゝおぐぎあどうめるいとくのもてをるも減まもれさゝいきくとふ名を俗あくよいひがごとなり」

類聚國史曲宴云延暦十六年十月云云酒酣皇帝歌曰

巳乃巳呂乃志具礼乃可米爾菊乃波奈知利曽之奴倍伎阿多羅蘇乃香乎

世佐ゝるとゝ歌すてきくとよめるえび

めてをるもちるとよませたゝまき

離騷ゝ朝飲木蘭之墜露兮夕餐秋菊之落英ゝゝ

素性集

秋風の吹くのをの〳〵菊ちあるゝよるゝ花をさすなり

さゝ

古秋下素性　菊　新撰朗家

ぬれてをる人の袖とは菊の花のうつるいろでもちるぞをしき

（つゆ　古菊朗　うつろへばかなしきものを秋の野の草のたもとか）

業平

同伊大家

梅ちる風の中にあるまで時やさうざゝんの花ゝちゝめ松さゝうれめや

とゝゆき

うつ家

同朗卅家

ひさかたの月の上にてゝる菊をあまつ星とぞいはまほしけれ

菅原のおとゝ　是善朝臣男

同菊新撰

秋風の吹くよりたてる白ぎくの花のあゝぬこの世のうちするか

紀伊

つゝゆき

ふるゝをりをれて吹くる菊の花たひゝうゝこゝ匂ふべゝ秋を

おれゝゝ

古秋下

ぬれゝゝ有ゝうゝまぞ菊の花をさゝこゝそうつろひゝみれ

おゝゝゝ

月新も菊もひとつゝまる花ハいづれをきて折ゝとぞ思ふ

（ハ　桂）

家　みつ

家

いろ深る花あゝゝゝも月新の家の白ぎくの花

うつろふと人ゝる花ゝゝ菊の花さきゝ桂ぞうゝゝざうゝる

新拾秋下　代秋下　貫之集

ゝのまもゝゝ花ゝゝゝゝの月よまぞふ白ゝ菊

ゝゝゝゝ

後拾秋下清原元輔　貫之集

うすくこくそめぞこゝける菊の花ゝゝやゝの後ゝゝきて来らん

も貫

風秋下貫之家

ぬくゝ花ゝゝゝ家

風家

ゝゝ花いづれを家

ゝゝ家

躬恒集

非字有ゝふうつふ菊の花

下同

家 ふるさと流れてふるき家有れど菊の岡とぞ染めぬべき哉

同 弦をとりてぬくもあるもの哉毎年きくれどとある家のしら玉

こつね

古秋下 新撰 金朗 いあてるおぢやをとんかの葉のおきまどはせる白ぎくの花

おぢ人

新拾冬 家 こ新家 うす新家 菊の花ときもおそきもとまでよ葉のおうずハ色を新家とこんましや

おぢ人

夫冬 家 ちつ時白ふりそめしより菊の花古家イふりしぼてまさ家ハうりけるぬイ

古本集 月影よ色こきがくさの古きぎ藏ぐくハ折てもをるぬしもつこそすま

貫之集 折ぐとて雪ハおけども葉の花人のようひもそれぞでみてる

貫

朝恒

類従本躬恒集 もとよりの色ハあれど菊の花もそ出てもとしを待るる哉

菊の花よくまの色をきる人ハ仏さへまで宮ぬるひぬ信よ

躬恒集 もとよりとそまハあるもど菊の花うるこそハうつに不ぐ〜か雲

ともはる

新續古秋下 是則 はつもの〜おこそこつれ侍の江ハ雲よのこまる白ぎくの花

おれぢ人

古秋下 菊 新撰 家 ひとと本と思ひ〜菊の花 古新 大宮の山城 仲の屋まで家 雲ま浪ろ植け家

ち里

同 寛 新万 句 後六 植〜時花まちぢわよ〜きれうつろふ秋よ雪ハあれとぐこる新

おぢ人

同平貞文 新撰 秋と染て時こそみるれ菊の花移ろふるよ色ハ秋さ色バ

後秋下 よくあぢ 子後 なるまきくを深ろへ〜旬ふん花まてそやるもも移くに

後撰春上 藤原兼輔朝臣

やどちく〜うつてうぐ〜ひもあく

まちどをまの〜旬ふさあるのれ

此うこおあぢ人ある八ろう〜古今を

正〜とまぢ〜次のうこもよ人〜〜ぢ

あるを新従本旬題和歌の書よ出さ

きるハちよりとれるる侍へ

家 秋のよもふくかるやとときくれたらげさへとひてるまこもうん

伊勢

きくあるぬ菊これくもあハおもわれるまあひて人しあるれど

か給古け

古今秋下 とゝゆき

久くらの山もくるそてるきくを

あまつ星くそ花やまられけふ

古木集 けふ一くせるまうつも菊の花あまつ星とやあをうハこん

おもひきて古

おもゝ人

あくこ花物まざりる秋世月時白ふるゝ菊まハあれども

星名

新拾冬 代冬 夫冬

菊のさかりをもの風よもちもそるまでとやまハ代の

のあるを風 新代

おなゝ人

貫之集

みそぎする河のさゝれハかくるゝ

ひもゆふくれの波ぞあきちける

續後拾秋下

ぎも續

ちるぐさぐさひもゆふぐれの菊はなにのあれぐ秋のをゝこゝける

あれぐ續 をゝ續

夫冬

ひとくさふ咲ハ白ひ菊

きくの花夫

をゝ白ぬるうつ一て落をゝをうふあの菊

白の夫

後憲五清蔭朝臣

かくぞろり涼よもをもを折るをきくれ菊といをなん

ひ後

匂ひきん雲ふハくぬぐ菊の花あぐりをくもおもわ白るら形

色も香ふ菊とを形てぐ系ようハきあるぐと思ふむ

古秋下 ゝゝ人考ぐ 新撰

色うる秋のきくをバ一束よふゝびるをふ菊とおそみる迷

ゝつ形ゝ

くさ花のく

家

なのかうをゝをゝぬる白露ハいおきてもおもふ偽まの形

桔 梗

きちかう

和名抄草類云禮記注云芸名雲久佐

酌香草也

此草和名抄に入りのひふきとも白されど弱まハふるくより書るてきちらうとのミよりあり

拾遺物名　よゝ人しゝば

あぢ人のまぢきちらうおゝ花うるそ
あるひもあくべ、おつ〳〵ろ〳〵」

古物名友則　家

あきちらう所ハ草もろ〳〵白雪のおけるゝ事もなこのうゝ
はの法きちらのうてゝ出とゝゝつるに嵯ようつろふ色のうなり色
むし

此草も和名抄に入りやゝぐさ又にがぶとゝ白されど弱まハぢう

龍膽　たゝむ

たんと書るのゝよめ里

拾遺物名　ちゝ人ちゝば

川上に今ゝうゝうゝんあぢろまち
まづもゝぐぢやゝうゝんとすゝん

古物名友則　家

花ゝあぢうまてもちゝん秋風に波立うゝうゝふ花のゝ

ちぢ〳〵古

ちうゝんとうゝんのハあれぢやゝ古ゝうもゝる

ふく家

はゝゝめき

保勢

色深き花のらきまゝうたむ世ども此ふふこのき秋のさ花のれ

あぢ人

新勅物名　家

風立ゝゝ波のゝがあの高ようゝうゝんむをまづやゝうゝま

さ新家

紫苑　志をゝ

和名抄草類云本草云紫苑一名紫菀和名能之俗云之乎迩

此ゝゝ色もとあり和名抄ふるものゝ文字をおゝ〳〵あるべ

秋の野に花ふる人ゝもあるきゝをみゝきのゝもみゝゝうゝゝ

ちりぬるもちぶ子れゝ子ふゝのようつる　花はいろも

ぞ桂

新勅物名　家

うゝけゝ色もる袖をきもゝそぬきゝあハ涙の数ハゝてまゝ

つゝぬぶ新家

たま新家

いせ

咲ゝて〳〵今ハあゝゝと思ひゝをあゝうゝれても匂ひきるこの形

ゝ

古物名よゝ人ゝゝば

きくも形咲出めれぢゝと思ひゝるあゝゝをあ思ひゝる形
ふりゝゝていざ形ゝの色ゝんとゝゝを色ひぢ稲ろひよゝる
ゝのゝ形ゝひゝゝとつきゝゝん思ひハゝものく結びゝあゝゝた

お形ゝ人

くたふ

くゝに従ゝあり藻塩草に入苦膽とあり就絳の一名とせり

又契沖は苦冊として牡丹の事とせり ちくさめの巻云ひんがしはすこしけなるいづみにてくさふかきやうの花ちらして春秋の草木その中にうちまぜたりとぞ
河海抄には岩菊ありといへり

和名抄草類云本草云薔薇陶隠居注云營實 和名無波良乃美

古今誹諧　よみ人しらず
まめなれどなにぞはよけくかるかやのみだれてあれどあしけくもなし

狹衣一
わがこゝろしどろもどろになりにけりそでよりほかになくさむるとて

古物名遍昭 家
散りぬればのちはあくたになる花を思ひしらずもまどふてふ哉 てふ 古 家

ぼうたん

そら上を山まで落る瀧つせにしづくはれそぐなるに

薔薇
さうび

古物名貫之
我はけさうひにぞ見つる花の色をあだなる物といふべかりけり

かるかや

河梅枝
まめなれどよき名もたゝずかるかやのいざ乱れなんしどろもどろに（よしとても 河）

秋風に乱れそめにし苅萱をとられでつかねてゆふきなれこし（本ノマヽ）

かるかやのほに出て物もいはねどもなびく草葉は風ぞしるらし

かや

万十四 夫雑十 よみ人しらず
いはのねにろでるがやあやまくさねいねて社ちとを出すしか（さ 万 夫）

日知録姉女祠碑文云百日積薪一日焼之
とは採ずるにかゝる読にしくぶかくよりとりとめてまで七日とあるはたゞ日数の多きをいふ 万葉に七日まで
なけもおほて又思ひがけきは七日はそぎばなど同じ

かやの野べにもかるてふ峯の上に松の葉しげく久しきものを哉

七日ある蛍は思ひなけらへなれや人におもひをつけてやくぬる（火ヲカヌ）

そちそ

万十六
久かたの雨もふりぬかそちはは葉にたまれる水に玉に似むらん（言 万）

そちすは葉におきゐる露の玉なれはうつのべる人のいとをしえる

みなかみと思ふらんは蓮葉の香をさへ知らまくも恋しきになる哉

寛平歌合
このよにはなにとどめそそちすばのまことの玉となりしそてまば

法華經涌出品云不染世間法如蓮華在水

伊勢

夫夏三 よみ人しらず 家
ふたりにはうらふかそてこそあけはなれことをもちきさへられば生なりか（く 夫 家）（あり 家）（を 夫）（不耻身ヲカヌ）

へせう

古夏 朗 家
蓮葉の濁りに染まぬ心もて何かは露を玉とあざむく（など 家）

風はふかぬそよふる秋吹の池のそちは葉ひろかつくしけ

家ちかくあそびつるをちさて暮を思ふらむいまでこそなけや（らぶエ）

かきつばた

万七 續後拾春下 夫春六 初
すみのえのあさざはをのの杜若きぬにすりつけきむ日しらずも（きる人もしらで 初）
[illegible] 参議泉樹男

後夏
いひそめし昔の人のかきつばた色ばかりこそかたみなりけれ（やど 後）

万十 赤人集
我のみやかく恋すらん杜若匂へる妹はいかにかあるらん（つらふ 家　あるらん 万赤）

同十一
かきつばたさきにほへる妹をいさめに思ひ出はしてなげかるる哉（きえ 万　さめ 万　つるうも 万）

貫之

家 朗伊勢
なくやとてきてこそ見つるかきつばたうつろはぬ時こそ人もあらめ（け 家　まで 朗）

返事　おきかぜ

家 貫之集
むつましくかたらひへぞぬ杜若ちらぬいろはうつろひぬべき（こひと 貫　めぞみ 貫 不家　つらん 家）

又　貫之

家
たぐちなくそこなる雲の風をもちりてうつろひぬべし（ひ 家　ちりをふるとそ 家）

万七 夫春六よまんしげ
わがなぬ人くる山のあきはのかきつばたもしらずともかな（不万　るうも 万）

なすびら

古躍族 新撰 伊家
このよきつあれすぐあればなるべきぬるたびちかくなる

さくも

万土 續後拾意三（ひぎも 万續）
わがやどのまつにあらずは刈らまくも思ひくづれて春ぬ面をきてをみ
菰のはなさく津のまこもの草まくらかれを思ふやなきさみ

第三巳出
つらづらにおもふらむしらさきの池の花をもかなや川あやめさん（うき 松葉集）

河内
さく杖なるほのよまれかることのをまくも秋の花ぞでたのまん
おほくもれてとこ

契沖云人丸山秋津野とつづけられば大和く但八雲法抄には紀伊と注しれたり

おもと花うつくしきをまよびて出せるは物のやうなれど同物々袖中抄巻十六に顕昭云名ぐくしくせりものさいへど六帖には杵のお花なくもとあげたり但ふるきに云はくはしくあきらめずして物の実名をも出さで名のみなりたればお花あざるくも伝ればー定にあらざるいはれたる実に志かくとてもそのごとく名のみをれば尓物のまとくあげたるに

六百番歌合　顕昭
さもまくるたかきのしげみもたやぎれ相よもそくやあされのくあり

万葉十五　羽栗
美夜故邊爾由加牟船毛我可里許毛能美太礼弖於毛布許登都礙夜良牟

万四 わぎもこにかけてあひみて刈こものおもふこゝろがたぐへがたき　わぎもく万　たぐふぞ万

はらゆき

難波江のあしのまろごもかりねていそよがなきをまつらん　假ヲカヌ　夜殿ヲカヌ

夫雑四 野よみ人しらず　みくまのゝかたやまもとのはらけそ雪ふる里にあられふくらん　子夫　きゝ夫

みなとのはまにはせつるわのごまにそれもいなそぞあふ

むかへつゝ

花かつミハ菰をいふ花咲菰を花かつミといふなる童蒙抄奥義抄綺語抄袖中抄枕草子の頭注にも見ゆ本草啓蒙小菰米の文字を花かつミにあてたりおもしろし猶くハしくハ師の萬葉攷證にいはれたるを見るべし

万四中臣女郎 夫秋二女郎花 新撰　女郎花さく沢におふる花かつみかつてもしらぬ恋もするかな　さき万　うつて万　かも夫万

きゝうちる八重山吹の花の色にうつろふ人ぞおもひかける

古恋四よみ人しらず　みちのくのあさかの沼の花かつみかつ見る人に恋ひやわたらん　をと新　やあらしもこひやわたらん古新

つのあし

和名抄草類云玉篇云蘆菼和名阿之豆乃蘆之初生也

童　芦ばのゝ生出し時に一夜と人をおもひそめけむ　つの童

古事記神代記云次國稚如浮脂而久羅下那洲多陀用幣流時如葦牙因萌騰物而成神名宇麻志阿斯訶備比古遲神云云これのさまをよめるうたとみゆ

古恋二貫之 家　津の国の難波の芦のめもはるにしげきわが恋人しるらめや

新千恋一貫之 家 童　人しれずおもふ時ハ難波なる芦のしたねのしられやはする　つのくみ童　ぐさ家　そらねもせられやはする家　ちさぬの下にあらる童

つゝゆき

續後撰雑下よみ人しらず　しほのよすればなびくあしの根のうきふし世の中はみじかからねば　ところがなし さ續

万十一 夫秋三 雁よみ人しらず 古本人丸集　おしてるや難波ほり江の芦辺には雁ねたるかも霜のふらくに　十三万　ねさるらも万夫　ねたる古　らく万夫

あしへ

新古雑中 家　あまの女の衣ほすとて刈てたく芦火の煙たえぬ日ぞなき　え新

ひし

人まね

万七 夫夏三よみ人しらず 石見　君がためうきぬの池の菱とるとわが染めし袖のぬれにけるかも　赤勘　家夫

とゐ穴名寄　あはでふる人ぞうき江の池に生ふるひしの下根のなげきてもすれ　うき名寄

万十六豊前国泉郎 夫夏三 又雑五池よみ人しらず　とよくにのきくの池なる菱のうれをつむとや妹がみ袖ぬれけん　ひし夫　ぬ夫　つむ夫　そでぬれにけん夫　れけ万

後拾遺雜一　曾根好忠

川上やあくるあの池のうきぬまを
うきことなれやくる人もなし

拾遺雜戀　明日香采女

池のめのそこるあくるぞ袖ぬれぬ
くる人もなくまつ人もなし

ぬなと

万七家八

玉ぬいやこのたゆまきよ浮ぬあハへるも沖つもよりやこのまゆ（くまを万　あくるけるう家）

ひとまろ

古詠諸家童

かくまぬ池底よりまるねぬ袖の袖ぬ名ハたてゝくるなひとして（た古　こもりに童）

つきエ

まるをつるさやおそきと袖ぬ形そのねぬきバ人のくるもさくまゝ

忠岑

山ゆくるいおひねど根菅葉ハくるまゝ思ひまたこの形

大和

ゆくのくまゝまゝ袖ぬ池の袖ぬ袖ハのくれぞ物の形ともあまて

あさゞ

くるかくよ思ひますゞの池よまるこのまゝゞめうきて世をゝゞへよもや

人麿

うきよな

万土

ひきゝ衣の思ひふれて浮ぬみせうきても系ゝ浮ぬるうれ（ふれつ万　ぬ万）

いせ

新代雜上　代雜三　家

相模ゝてゝゝみようゝるゝ浮ゝくさハ池の浮き線形むれるべ（きゝ新代家　さ新代家　ゝたり新代家）

ものゝさまち

古雜下　新撰家

思ひぬ思ゝ分をうき苔のぬきゝゝて後ふ水あゝバいあんゝゝ思ふ

躬恒

續古雜中　古本集

水の面ゝ生るゝ月の浮ゝ苔の池のゝよるや猛をまゝ形ぬん（てゝぶれる古本　てゝぶゝうゝきゝゝ續　ハ古本　くゝん古本）

夫雜十　よゝゝゝ

ゝたゝりゝ浮ゝ思ゝ苔ゝ形ゝくゝうける蓮のまゝくゝゝ人ハ意ゝうける

つきゝつさ

古今雜下　ゝつね

ゝゝ面ゝおゝる面月のうき苔ゝ
うきゝゝとあれや袖をゝゝゝ袖

契沖云俗ゝいふ事ゝまあり

万七　古秋上　よゝゝ人ゝゝゝ　拾雜上八九　家

月ゝゝゝゝ衣ハゝゝゝゝ形ゝゝゝめれての浮ゝうつろひめゝも

つきゝきのいゝばゝゝゝゝゝゝゝゝ形ゝ人ゝゝゝゝゝゝゝ

齋宮女御集
へだてきるけしきをうれば山次の
花ごろともいひつべきかな

昔より打ふる人よ法き草の花いとゝふるをこゝにてふる
月草のうつろふ色をおもひさだめ今までゝ結ぶ露のあ
つきうゝよ衣色ごろもきるめぐも稲ろふをといふぐるーさ
第五巻出 世の中に人のいとゝ月草のうつろひやすきをたのみける
万十 古歌人丸集 ちぎりをば夕べぬけぬべきつきくさのけぬべきものるつきくさのけぬべ
あしたゝ方古 夕べぬけぬべきつきくさのけぬべ
同 名ばかりすさびてふる月草のひくさへともにけぬべくおもわ
つゆ方 ゆるよ

わすれぬるなり　貫之

古きけ 新撰 みちしばのつゆもあるん住の江の岸よ生てふゝ色ふれ草
住吉のおもてぞきしし色草人のこゝろをいとのでおひそん

おもゝ人

土 ちぎりのほとゝぎすとよ色草ちるーみちやとつゝよいろべき

拾雑上 夫雑 家 打思びいさすゝの江の拾夫家 ゝ色草ふ色きてて人の又やつまあやく
人を夫家 とつまはしをおふイ

躬恒

古雑上 生忠峯 新撰 ちぎりをとゝ海古いつもも出居草人わもれ草岸よ生あまれ
おもてふ方 古新
後意三 長谷雄朝臣 ちぎりをとゝ海古いつもも出居草人わもれ草岸よ生あまれ
わも秋ぐさ稲のうぎりハそ多人人のこゝろよまろをざるべく
蒔ヲカヌ

古意五 さのおやる 稲ちくあぐあふるやのつまあれバひとを思ぶの草でまける

いせ

後拾中 中宮宣旨 家 ちぎりをとゝ海古いつもも出居草人わもれ草岸よ生あまれ
ふきやば 後 出もあき草人居草の中に草を社こ秋
いづ 稲よ出 出あるやば 家 ちぎりをとゝ海古いつもも出居草人わもれ草岸よ生あまれ
こゝろもいとでふる屋の思草よ色げさ塔れバこゝでほよ出る

伊勢物語
今はとてとすゝ草のたねをぐに
ひとのこゝ侍ふまりせぎもぐな

後撰雑三　つゝあき

あのざくともたちとゝまるん那ぎ名又
おとあゝ笹れうひやなるゝん
枕草紙云おとあゝぐさ人おもふす
おきるやあゝと思ふもたゝ

古物名紀とーさぎ
山こるゝ　隣のあゝれたくさゝ旬ひもあへぞ花で咲きそふ
つぬみ古

おとあゝぐさ

夫雑二山ゝ人ゝ
こゝろを歩の松ふいてぐまふれどこと那ぞまで生そゝりける
くりこ夫　め夫

法ゝ田紀

人のゝいゝ稲の沈れあやなくこと有ぞの有るさそれ
大和　ん工

新勅意五ゝ人ゝ
きゝゝ人て　ぐのふるやのひさまふ雀さゝ那の芽で生ぬ新る
出て新

せを

左兵衛のまろこ

万代
あこのあさたゝ人ふたぐおくめぐ面のよる孔いゝまよ揺るせうれ
ひて万

命婦　傳未詳

この人ゝ

同
まゝゝとと思へる物とたちときてかるたの田みる芹でつゝゝる
山城

人ゝ生ぎ沼工　流よ生てふ涼ぜりれ泉ぐよひぶ沼もこぐゝあや
夫春一若菜ゆゝ人ゝ　ゆさて夫
春日のふりさこてゆく人ゝりふ見先つまんやさにのれ芹

大伴のさるぐの

なぎ

万三　夫雑十三里ゆゝ人ゝ
さる千鳥春日の里まこうるゝ　おぎあゝ那ゝといひゝえふさまろり　古万夫　ん夫

同古　同春五苦代ゆゝ人ゝ
苗代のこゝぎぐ芝をと衣よ苔りなるゝまふゝあをぐ世ゝき　け万　さ夫

同　同雑六弟人丸
かむつきのいゝ屋れ流よ柱　の万夫　こ万夫　おぎかゝ立んとや種れ夫まめろん
み万夫

たで

同十一　古本人丸集
我かのゝ孔でふるこゝつゝとやゝみよあるまでよるゝをゝまゝん　おを夫　こゝまて古
夫雑十ゝ人ゝ
ゝ那月れふゝよ生るやほさでのかゝゝや人よあそぬゝ　こゝち八夫

むぐゝ

第二巨出
蓬さふいやゝき有ぞ大るれ古んとゝろゝせバ玉志のまゝを

本草和名云蘿菜和名奈岐
契沖云古ゝは俗ふふ水菱とふ
ものあり

山家集下
くれなるれ色ありぬぐゝたでのろ
かゝゝや人のめまたてめそ

万品大伴坂上郎女大嬢
なのりそかしてときなれる方
いるあるんときなれる方

後春下 家
やへむぐらのうちよりさけるふ家
むぐら

家
八重葎さしげくのべて住まねど
人めぞ宿のまれにとはまし 本家

夫雑十八憲 河ダ顔
たまくしげ玉の緒ばかりあはじとや
思ひそめてし人の絶えなん 夫河

葛生はあれにけりとは思へど
玉の枕の
葛

後秋下 新撰
たまくしげ山のもみぢ葉
八後新 こそ新
葛の葉の
葛

新古憲三 家
かけて思へども
葛

万品 大伴坂上郎女
玉はかぎりあるものなれば
葛をなずらへ五味をさだめ
忍冬
をもひとしくあるいふごとし
ちぶの三首は髪に挿のかづらをよめるなほ
古今墨付
古今集付
おもひはのべてそれば
おもひはのべてそれば

万葉十一
玉敷有家毛何将為八重六倉
屋毛妹與居者

朝恒集
あきのたのかりほのいほのとまをあらみわがころもでは露にぬれつつ
拾遺戀五
ひとをこそ思ひ
ひとをこそ思ひ
うらみやすきものなれば
人のうらみ

いくさ庵よ生るものぞと玉葛いでそのびよねもそてしの形
くさぐさ
さぐさふん

古憲五 後秋
秋風よ吹きのへさる葛の葉をうらみてもかくうらめしきかな
のうらふきくさ古後

後憲一
足曳の山下さびくもふくぞのうらてこふる葉とそうらぶる
かげもうの玉
はうらぶき

古秋下
ちはやぶる神のいがきまもふ葛も秋のはあへぞそ分はけり
うらひ古
拾雜憲
枯のうてをまはようつろふ葛の葉のうらみやすきは風はたらつ
風はまこ葛の葛はそうもそれば
ひとの拾
心か

万十 古来人九集
つるぎぬのうぶぞハ日おとるそ分ぬきまさぬ
ふけ万 まぶこぬ古
ハ仁のぐうぐぞ古
ぞも

同七 夫秋二 女郎花
女郎花生る野辺の葛系いつもくりて赤衣よきもの
きげ夫 いうもく夫 こうも夫

此名あやまり万葉ニハ丹大臣藤原卿とあり古ハ鎌足公の法子之御食子卿男おくみまろとあるハかまたりの出損なるべし

万十四 夫秋五くさまくず 相撲の歌

さ牟こづゝ　みまろ丹内大臣

同二 玉くしげ　みまろ丹山ハさねづゝさねぞづつひよみとてまろ丹

三條右大臣

後憲三

名よしおぐぞお坂山のさゆづゝ人ハまゝまでくるよしもがれ

おき名のゝくゆつるの山ハさねづゝくるゝ人あるとハこのいふゝん

後憲三よくゝぞ

ハまおきを思ひ思ふのさねゆづらたゝいとふべゝなり

あり けり 後

このとハぐら

万十一 續古憲四よくゝば 古春人九集

山ゝるゝ谷べよたゝへるまつぐら　万 續 家

やまづつハ花ゝるまゝあをつぐらハるゝれどもあぐゝ法

万 續 家

ハぬめふいひて物をまハぐ舞まゝるゝのゝ　木ママ やまひとのうさ

ゝ花ゝ　万 伊勢集

あさぐま

やこのもち

万八 夫秋三ゝま

たゝまぐの万

白那の乃ゝ花　万 伊

新勅秋上ゝまくゝば

朗道信

おぼつゝる許ゝゝ

万十 人九集

ゝ良ゝ　万 ひま人

あさ家おひて咲ゝとゝ夕ゝ　万 人

咲ゝゝ咲ゝゝ

夏ゝ

家

やど家

ゝの山ハ　ひ家

もゝあゝ　む家

ゝゝ家

ゝゝ家

ゝゝ家

ひまゝ

ひのさぐ

万 阿倍貞磨

浦茅生のゝ高ハ京思ぶゝ今ハ高ゝ山ハ人形ゝふ

むゝまつ 誤

けさ咲ゝてゆきゝ屋ぶね宮みゝも山ハあさぐ色ハ分ゝけ

あゝハ

あゝ花ゝ

あゝ花ゝ牽牛花と木槿とをまぜゝ出せり

真淵云此ハ槿ゝて木ゝゝ毛世のあさぐまゝゝゆゝゝ

契沖云此ハ花ゝ花ゝゝて木ゝ毛

詩鄭風云有女同車顔如舜花王篇云槿榦緋切又云蕣木槿花切堺雅云槿華如葵朝生夕隕一云舜瞬之義蓋取此ゝて木槿を漢ゝハ花ゝ朝生夕落とゝゝ現ゝ彼花をゝるにタゝも花ゝれぞ　實鞏詩云槿花半照夕陽收カゝ是ハ此花ゝ花ゝ槿花ゝといふゝ下の句ゝも侍るべゝ花ゝゝ

花花ゝの花ゝ　後撰戀一

あさぢふのゝゝ高のゝゝ高のゝぶれどゝのまゝてあゝゝ人のゝひゝ

深ひゝの花ゝ

万葉ふ天皇とあら、聖武皇帝の御
ゆゑ[illegible]あるをのみ[illegible]あるを
[illegible]

万八 天皇御製 續後拾中
もゝさきの[illegible]
同七 拾雜下人丸 夫雜西標
山[illegible]夕日[illegible]の浦業集
古意四 新撰
おもふ[illegible]

時雨のまなくふまぶ[illegible]浦業の色も猶ひまもなし

ほづゑのもみじ

万八
[illegible]
同土
まくずちふ小野のあさぢをいくり人ひろあやも[illegible]

はぎ形

同八 紀女郎 袖
[illegible]
同家持
[illegible]
同大伴田村大嬢 夫春六董 家持集
茅の花つむあさぢが[illegible]

契沖云茅花の義也本草ふ白茅根
有補中益氣之功云云

醫心方巻一云芄蘭加ホ[illegible]枕草
紙云かまびの花名[illegible]ぬど春の
[illegible]
[illegible]又證類本草引圖經云芄
花二月開紫花頗似紫荊而作穗又
似藤花而細云云[illegible]を先哲[illegible]
雁緋也[illegible]

契沖云[illegible]八代也[illegible]八助詞[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

歌木集夏部
あぢさゐ[illegible]花のよひら[illegible]月を
[illegible]
さこく[illegible]
[illegible]新撰六帖[illegible]
[illegible]
竹取物語云[illegible]
[illegible]
[illegible]
和名抄草類云本草云蕳茨俗謂之

かまび

拾物名伊勢家
[illegible]

あぢさゐ

万十一 左大臣 夫夏三
[illegible]八重咲[illegible]
[illegible]

さこく

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

菫葵 和名須美礼須

本草和名云草蒿和名於波岐

万八 柔人 續古春下 雲春下 夫春六 家枕
玄の野辺に春霞 揚まと赤く見れぞのもとあつらへみつ枕

後春下 よしへ
見るやどに菫の花 おもふれどきやとる人やあるかきつれ

万八 高田女王 夫春六 歌冬
山吹の咲くる野べの清水に 此玉藻さらにかすみ来もと

わたなだ

同十 夫春 若菜
春日野に煙たつ見てもえ摘 おきき摘てくるしら 万夫

つくし

みくり 水の山の藻とけさられば 藻 火ヲカヲ 万夫
伊勢集
系るよ おげきこるも高くよ 仏のよろこびと 後てつけ

古物名 ちくさ はこ 万
けつくそもみくもの藻を 後つくろひと 名付 初もん

ろぐ

第三巳出
見ての山 見に深よ ろぐつまと 重げのみよもの 祝ぬ

つくしあへてもそこのこころをぞ
このへ　仲實朝臣
わざしふきみさつくしたあて
いくゆきてあふ秋ぞ
ときもそこてろぐはせりの見名
あるるあきくけ

万土
あくひきの山深ろぐをとろうん日だも寝ん 枕 万

ゆり

同八 坂上郎女 續後拾遺 夫夏三
ゆるよ那の高げくよ咲る 姫百合の高れぬ 高ハくるくこうけを 万 續夫

同十
みちのべに そよ深ゆりの後まそふ 妹ゆみくをもあ

同七
そのぞろくきふ百合の花みさくくふ 高くいたまふ 万

たのる

同十 夫雜十 藍
くくまぐ高ハ高あくくぐ
高びるハ 万

まさにうつ

同七
高ぐくぎの神の宮人まさにづくらやこと高きふ高うくうん 万

ひるげ

同九 新勅雜一
見て山下ひるげのつくけるうくるやさくふらめを高のだも 万新

本草和名云藍實和名阿為乃美
太鶏冠草和名加良阿為とあるく
ちくものく
書紀繼體紀大兄皇子御歌云麻左
左柴逗蘿
此云方葉ハ冬薯蕷 サトカヅラ とあるハ白し
又こかまきさぎくとあるもより和
名一宣長がトコヅラとあるぞいと
よろしきところ〳〵いやこしきと
つけたる 頃人
和名抄祭祀具云日本紀私記云為
鬢以蘿 和語云比加 以加都良

此うさひかげを物名にもあり
契沖云こまさハ朝日影之蘿のうまあらば」
山橘ハ俗にいふ藪柑子也造酒司式云大嘗祭供神料山橘子麦等草各二擔とこそあり本草和名に牡丹也末多知波奈

万葉四
奥山之磐影爾生流菅根乃懃吾毛不相念有哉

寛 新万
をとめ子がひかげのかづらにふる雪ハ花のかざしにいづれまさらん　まがふ 寛新

後撰三 もろまさの朝臣
まだ緑なる日蔭のかづらかけてぞひとしれぬ心をつねにおく山のおもひかけてぞ年はへにける

山たちばな

万四 田部忌寸櫟子 八
わがやどの山たちばなの色に出でて見えぬる人もあらばやと思ふ　あかざるきみ 万　あかざるいも 八

古今一 新撰 家
あしひきの山たちばなの色に出でてわがこひなんをやめんかたなし

万廿 家持 夫雑十よみ人しらず
けのころもやまのあひにのあしびきの山橘のつとにつみこな　へて 万夫　みこ 万夫

同十一
足引の山たち花の色に出てかたらひなんをやむべきものか　ひくすべ 万

すげ

同 夫雑十よみ人しらず
三吉野のみくまが菅をあまなくに刈りのみ刈りてみだれなんとや

同四 家持
あしひきの山に生る菅の根のねもごろみまくほしき君かな　も 万

万七 夫木二十 女郎花よみ人しらず 赤人集
女郎花さく野に生る白菅のしらぬこともていはれしわがせ　つゝじ 万赤　ひとごとと 赤

同十一
しらかつの根ざしの小菅ののびもせでくるまでみてぞぬるをと　ナシ 万

同 夫雑十 人丸
みよしのの三宅の山の岩ね菅ねもごろわれハ片思ひぞする　大和　ねもごろ 万

同 同又雑十七 帝王 童
大君のみかさにぬへる有間菅ありつつみれどことなきわぎもこ　かさに ぬふ 童　十 万

同
すがの根のねもごろ妹にこひしうら思ふにおもひそひぬるかも　も 万

同三 笠女郎
おく山の岩本菅を根ふかくもむすびしこころわすれかねつも　め 万　めて むすびし　わすれかねつも 万

同四 藤原朝臣久須麿
奥山のいはかげに生る菅の根のねもごろ我もあひ思ハざらん　や 万

同七
いもがためすがの実とりにゆく我ハ山路にまよひて此日くらしつ

同十一 拾遺四 人丸集
こちたくの人の心によそへてふみる菅の根のねもごろにこそ　むすびし 万 拾 人

さゝ

玉冬 貫之 家
篠のはにさえつる霜のあしびきの山には雪ぞ降つもりける　まさり 家

践祚大嘗會式云車持朝臣一人執菅蓋子部宿祢一人笠取直一人並執蓋綱云云
契沖云むかしハあるよりすげ笠をもてまうしたや今ある温泉の近所に笠といふ所あり
此おくのほそみちに生るすげといふも流布本にあり今ハ工本にておぎ也

拾遺戀一　　よみ人しらず
これもこのぬ人ぬるやまひきれ
あふひありとて人やむくすりなし
童蒙抄巻五に酒よみひくるあるを
ゆふひの宮をとくべきさむといへる
みを可詠やるにて人何ますすてかく
いきれるるかゆきもりなし

松葉集　六帖
むさしあるさゆきの池のみくりこそ
ひけどたえまれもまれやたえする

童　玉笹の上にきくのみける白露の今はこと世へ人なりなくに

あふひ

新勅夏　よみ人しらず
ちはやぶる神のみ月に祭まつりひきよせて葵このむらん

童　思ふ事かなはぬ我なればあふひあすでは年やむ葉なし

かさだみ

あふさかの山もつまなくになぐさめ袖のちらちるもなけき　藏本

みくり

河むかひ
はつ時より身をとどめるものからくみしの人のこひしさよ

夫雑五池　よみ人しらず　近江
こひさてふこやの池のみくりこそかへる絶すれ我や寝たるの　武蔵

とくさ

これもまたとき宿の花の門にすたる人は誰ぞき

古今戀四　　友則
まさくすゝわびしく山のさくらゆゑ
下同」
新勅撰戀二　　よみ人しらず
きりふゆんその日もいつとまつの夜は
あけのこふれてなきをくるを思ひ
若沖云此花未詳もしいちふたるといへ
たる詞にて其の花といふ名云く
ら拔かるゝ和名抄野菜類に蕫和名
一云之布久佐　又草類に大黄和名於保之
とらたれをさしていふ名
大和の言は本とゝいちしの名あや
あるべしきかへ詳く

おもひあまるとびしきこゑたえまきのよに家にむかへむ
秋風やとよきの雪に吹ぬらん声あはれきりなく

たけ

第四己出
ときはなる松にかゝる昔こそは事のをしききさるべきを思ふ
石の上に生たるこけのねもいはてより物な思ふこの頃

家持集
おくみ山乃岩かね昔のまゝにあれどもあらぬなほもなき我
舞まをといつその日を待つの其昔の花すぎて立るこの頃

いちし

万土
ゝちのべのいちしの花のいちしろく人皆知りぬ妹に恋ふるを

第五己出
大原のいちしばはいつしのと我思ふ妹によしのひ逢ふるかも

しだ

万五 たゝみごもへてあむらぶよかうひさぶそのをくるまをぬぎすまをを

同 道のべにいつゝぎ系のいたるく人のあるさん時をまつらん

虫

古秋上 あきの夕べのもゝ寛 新万 新撰 虫のよるもゝ寛 新万 新撰 なくこゑ

後秋上 夕べ風はやく吹しば野也後 ひとりぬる人のあるまつ虫ぞふく後

古秋上 ゆきもゝ寛 新万 新撰 ひとりのゐるよるもゝ寛 新万 新撰 ねぬ

後秋上 藤原元善朝臣 秋くれば野もさゝ虫のあつまるゝ後 草のかげにすだくらん

古秋上 よゝ人ゝ子 あきの夜は雲ゝ子 ゐるとも村ごとに虫の侵ぬべ

せゝ

新撰 蟋蟀の鳴つゝおげる夕べあつまるあき人の侵ぬとなみ

ともなけれ

古今誹諧 よゝ人ゝ子

ゝひの夕べよりいでゝいりあるこゑ寛 新万 新撰 新朗家 ゝきてあの見ふゝろるもゝ寛 新万

古憲 寛 新万 新撰 新朗家 蟋蟀 なきゝみバうゝ寛 新万 新撰 新朗家 ゝ夜 ゝ寛 新万 新撰 新朗家 ゝ夜 ゝ寛 新万 新撰 新朗家 ゝ夜

六度集經第八云以色為火人為飛蛾々貪火色身見燒煮

古憲二　夏虫を何らいひきんこうこ系もおもひよもそぬべ〻ぬ

朗恒

ふこのやぬ

古本三つま集　まさらてハ我ぞもそけるこ夏虫の火よこ〻るとて為どもきそむ

古憲一よ〻人きこ〻ば　夏虫の身をいこづるよおきそともひとつおもひまよりて形うけを

も由る火よおもひ入ゆ〻こるもそ何〻う文ふこびこのへる信よ

伊勢

後憲五家　古本業平集　なつむ虫ふもきるくまどふこひをぶきりぬ世〻と注うんぎこうん

きまぐ〻に

古秋上藤原忠房　後六朗之妻　きりぐ〻そいこく形ふそ虫のよれ世ひ世ひ思こ系ぞ了されるる

おく せい

後撰秋上　よ〻人きこに

わのごこくまやこあきおりこに

くさのやどこよ虫なこずなく

たエ

なのこうあよあこきこ香のきりぐ〻きよあぐき人のもとふ〻こもこる

夏こく

後秋上よ〻人こ〻ば　秋風の吹つる音ハきりぐ〻に芙村ごこに芙みぐるあり　後拾後

つこぶおこく物や無〻まき蕃まこつどへよ抜もきぐこ形く

素性

姥風こや〻吹きけば虫ぐ〻きこうぐも蕃のやどもこうるに

まゆむ〻

秋の野に芙よぬれつ注くこう人まつ虫のここら鳴こる音

ちこといひ〻ぐもこるこす〻秋の野よひとまつ虫ハ秋の野〻さ

後秋上よ〻人こ〻ば　秋の野こるきやどこる人もおもこ音注をきまむ〻ここらあくこん

たこ

玉憲四貫之家　ものふされぐ人まつ虫の鳴あべよ　招ある多ぐ　意きまのさこりける　おきところあき玉

此うくまつむしを物名よめり

なごで五條后とゆるハ閑院冬嗣公の后也仁明帝の后のゆるゆあり
されど類従本伊勢集ハ花のおもしろきを折て武蔵の言ゆ事をとて
ふるさとのはれたてよりる秋の野に
花見ごろよりる人もがな

ほうし

秋の野ふかられまつ虫のこゑとあり
この武蔵の家とゆハ貞保親王の
ほうゆんされバこゝゆ五條后とあるハ
誤り歟但后のほうゆあらんもおと
しきたる歟未考」

和漢三才圖會ゆ鳴声如振鈴言里
里林里々林とあるハ誤り歟チチ
ロリンとゆゞ俗也ゑ於くハしハ幽
遠随筆ゆ

流つきのなるよたまつむし 松虫

五條の后

伊勢集
秋の野ゆ赤まつむしのあくとゆもぞ
きてでねおゞる蛍ハこてま

古秋上 よゝ人しらず
きゝ思ふ花のよやゆるゝ
ゆたるもまつ虫の秋ぞかなしけ

たゞむし

忠見集
たまゆらふそふあひられバ鈴虫ハ むつまし あゞくの忠 あゞくゆ
躬恒集 こも集
人の妹ゆるときくまでもゝ
第二巨出
かりよきてゆゞるぞまどふ鈴虫の
ゆハさゆらきゆるべあれども

ひぐらし

万千 人丸集
夕ぐよきひぐらし たゞの方 ひぐらしのこゑ
あくひぐらしのこゑ お人

遍昭

ゆゝ古今ゆも入ぜうとゝゝ又
赤集ゆも入ゆゝさるゆ拾遺ゆ忠
岑とあるハ誤ゆゞ

古今戀五 よゝ人しらず

あられもらしとゆ物を思ふとき
なごゆあゞごのいとゆゆるゝん

古戀五 家 拾物忠岑

今ゆんとしひてゆ見しあしようおもひくゝしゆ言ゆゆゞあく

ひぐらゆき 二首

後秋上 きく山のちゆゆれや後
ひぐらしゆ言ゆゆゞ
同秋下 貫之 きこゆ後
蛍のゆ光ゆいとゆゆく
同秋上 よゝ人しらず きこゆ後
ひのゆ風の猶ゆ来ゆとゆゞ
古秋上 よゝ人しらず 古本猿丸集
ゆゞくしゆ言ゆゆゞ日ハ暮ぬとゆゞ
ゆハ山の伝ゆゞみゆる

貫之

同堅けし 拾物名
ゆ人ゆゞ言ゆ虫ひくゝ是虫の山ゆ
ゆまゆ人くるとゆゞ ひと古拾 こゑ拾
ゆまゆゞもあゝんゆゞ 万千 赤人集 ゆゞ方 ゆゞあゝん赤
かくしのゝゆれバ物思ひ形ぐさゆ
ほのゝゆる

後秋上 業平 伊

[illegible]

夫夏二 忠峯 亭

[illegible]

つゆき

友則

古意二 寛 新万 家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

万九 みてあれば まべをとひて 梅の木の みるあるまでに かくまつ 恋ぎて

射恒

古本集 さくらぬ ぬ この木 あるまでに もられしを やけ 枝より いとで おもほえん

八古

さらゆき

家 うれしさに ぬ 埋木 あるぬ 妻 ハ 枝 花の たよりよく 見るとて 思ふ

ゆの家

伊勢

後春中 よしの山 さくら 家 梅 花 ふる ほのかに 見 おく まされば 形ぐ あげ きみ 解 ひ の こ る

れたず

家 たび 為 ふ れ な げ き を う ち つ る 匂 ひ も 忘 ぬ 袖 に 移 す る

後雑一 贈太政大臣 友則集 今 ま で に 思 ひ の 涙 ぎ て 四 十 と き 経 る 人 ま ぎ り ハ 忘 る

同 友則 家 さ る く の 数 ハ 忘 れ ま で み ま ぐ ら 花 咲 ぬ 木 を 何 に 梅 を ん

万葉四 事不問木尚味狭監諸茅等之練乃村戸二所詐來 大伴家持

此係本文ハいとあやまりいまく藏本によりておぎなひつ

此ぐさ本文もるのことありて下爾たり

栗の字を左もりとるもむ枝折の義ん

尚書禹貢云禹敷土隨山刊木奠高山大川此文を漢書地理志ハ禹敷土隨山栗木奠高山大川師古曰栗斬其木以為女也以ん師古の注ハて去もりの義ぬりん

万葉八 大伴坂上郎女 打上佐保能河原之青柳者今者春部登成爾雖類鴨

花

古序 朗 雪降ぬ ぬ ぬ ぬ や この 雪 ぬ ぬ 今 ハ 春 ぬ と さ ん や け さ ぬ

友則

遠江 春 ぬ ぬ の 中 山 さ げ く も 思 ひ き ま ね ば 面 影 ま で

ゆきのよ山ぬ面をいろまれば花をりぬ春ぬふふたゆむ

同春下 家 ぬ ぬ 又此帖 さくらの條重出 ひさかたの 光 ぬ ぬ 春 の 日 ま づ ん た く 花 の ち る ん

さらゆき

新撰 家 ひ ま ま ま て 花 の ち れ る ま ば き ん ぬ 風 ま 雪 ま と ぬ み る

お形ど人

拾遺春 よしの山 ぬ 花 ま ち れ る さ く ら 花 ぬ き ん ま の ま ん ぬ る

ちる花よ古ぬ ま ぬ ま ぬ ひて 此 雪 ま 雪 ハ ま れ ま で 出 ん ん る

おなじ

古春下 家ナシ

[illegible]

わかば

たま藻

[illegible]

おなじ

後春下 貫之 家ナシ

[illegible]

[illegible]

同上

[illegible]

みゆき

六之二

古春下 家ナシ

[illegible]

[illegible]

古今春下

[illegible]

つらゆき

下同

[illegible]

古今戀一

よみ人しらず

[illegible]

新後拾遺春下

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後撰春上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古春上 ミツネ

[illegible]

新撰 夫雜三岡 古本ミつね集

[illegible]

山城

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古春上 朗 世 家 塵ヲカヌ 世

春を待て花の洗とあるはちりかゝるをやとするとぶらん

春 性

同下 よ 人 ぞ 古 春の旬ひはありなめどたのひとんことぞ今ハ古 ありける 古

同 素性集 ロ 春風あつまへはこる物なれば一枝もとゝきこといさゝか

おくせい

同 新撰 家 ゝ古 春ごとに見ふんぞ春ごとにぬきてとむべく

同 家 著の條重出 春ごとにおのが羽風にちる花を袖にさそはるゝらん

春 性

拾物名 よ 人 ぞ 古 春の色をとゝのへかねてうつろふめでぶ色あきぬいざくらやとおてとゝのへん

同 寛 新方 家 ゝ新 春の本も今ハ浮ぬ枝ゝなれば古寛新家 なびきあく物ふもよ人なるひきか

おもゝ

拾遺雑賀 よ 人 ぞ 春の本はまぢき近くハ植てゝ下 下同

此うた後拾口伝ハ作者基俊とあり

古今春下 こゝろぬ

とゞまるべき物とハあーふとあくもちる花ごとふたゞふこゝろの

古春下 よ 人 ぞ 春のごとゝのゝ花あるべてしまるそ今ハ古 ものゝてゝきあるゆゝ

秋 花

家 春くもなき野 やど 家 ゝあれば色ぞとゝのへ物ゝ花ぞ家 ゝあく家 ゝ春ぞ

いせ

後秋中 家 富士ゝ桂 めつぞ後家 ゝ春ぞ春ぐべてぞ春ゝくるまぬくもゝ春ゝ人ゝ家 ゝあるゝ

紅葉

万十 續後拾秋下 よ 人 ぞ 大和 いもゝの柏 ゝ春ぞ 夫雑二山 よ 人 ぞ 大和 ゝ山の紅ぎめに旬ふもゝ春の霞まくゝ 百万續 もゝ 續

貫 こ 十二 ゝ

童 こゝ童 ゝ春ぞ ゝ春ぞ ゝ春ぞ ゝ春ぞ ゝ春ぞ 夫秋六 角盡 貫之集 ゝ春ぞ ゝ春ぞ ゝ春ぞ ゝ春ぞ ゝ春ぞ 拾秋 貫之集 ゝ春ぞ ゝ春ぞ ゝ春ぞ ゝ春ぞ ゝ春ぞ

古秋下貫之 新撰 金玉 朗サ

[illegible]

後秋下貫之

[illegible]

同 [illegible]

[illegible]

同 貫之

[illegible]

貫之集

[illegible]

風冬貫之 代冬 家

[illegible]

第二已出

[illegible]

拾冬貫之 家

[illegible]

玉冬 家

[illegible]

後秋下

[illegible]

朗恒集

[illegible]

おのがちりくもとのるべきなり

玉葉秋下 つるゆき

[illegible]

後撰秋下

[illegible]

万葉七

千名人雖云織次我二十物白麻衣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家
[illegible]

古秋下　貫之集　朗
[illegible]

大和
[illegible]

近江
[illegible]

後秋下
[illegible]

[illegible]

新古今哀傷　僧正遍昭
[illegible]

同元方
[illegible]

同興風　家
[illegible]

古意五　廿家
[illegible]

[illegible]

[illegible]

同秋下　家
[illegible]

大和
[illegible]

同
[illegible]

新撰　金玉　人丸集
[illegible]

大和
[illegible]

万十　後秋下
[illegible]

家持集　人丸集
[illegible]

同八大津皇子
[illegible]

[illegible]

古秋下
[illegible]

新撰　代意三信明　家持集
[illegible]

[illegible]

万九　新古雜中　伊勢集　夫秋六
[illegible]

第一巻出
[illegible]

[illegible]

[illegible]

うつ〳〵あやまりとゝ也」
契沖云神名帳ハ宇治郡山科神社
久世郡石田神社ゝゝ也もしくハ山科
ハまゝ宇治郡ハ久世郡ハ
かゝやそそふ石田の神社ハあるべし

寛仁元年十月二日左經記云餞歌
一腰赤漆弓一張五云
尺素往來云節巻重藤塗蕤矢十所
藤赤漆黒漆云云

拾遺雜秋　小一條太政大臣
もゝぐさのうつろひぬるあきぬれど
今ひとしほのもみぢをぞまつ」

古秋下よしのゝ人〳〵ゝ新万友則集
けさハあさぢはらもの
夫秋六

山新万夫
ちゝ山の
ふもとの
ハぎの
ゝ
古新友夫

ものゝ
こ

うつろふも
うつろふ
ものゝ
ものゝ
ものゝ

後春上坂上是則 家卅
[illegible]の松[illegible]

とゝゆき

同春下 よゝしらべ
[illegible]

奥風

古雑上 新撰 家朗卅 播磨
[illegible]

万九
[illegible]

人まろ

古憑三 よゝしらべ 家
風ふけば浪こそ[illegible]の松[illegible]

かへ

家
いろゝへぬ[illegible]

松のへのつまつよ似べきこゝろはふゝぐまん[illegible]

土佐日記
いまゝてゝ分さびまつめる住江の
まつよりさきにまつるゝかな

論語子罕篇云子曰歳寒然後知松
柏之後凋也

たけ

万九 夫雑十 よゝしらべ
[illegible]

家
[illegible]

風冬 家
[illegible]

家
[illegible]

古雑下
[illegible]

貞恒

後撰賀 清正
[illegible]

此うた類従本は雪中のをうるとゝるべくとあり さもてハ孟宗のあることをよめるやうにかゝる
楚國先賢傳云孟宗字恭武至孝母好食筍宗入林中哀號方冬為之出因以供養時人皆以為孝感所致
此うたもめんなをねのゝ名よりよめり

万葉十 何時鴨此夜之將明鶯之 下同

新古冬 兼輔朗 兼輔集 時雨さてる雪ハ降れども みくまの山のみどりとまれそれハ集 新朗集 ふ新朗

たうんなし 伊勢

家 山のゝ雪よ降るうらもん 梅の花こそ雪の中 のもとゝる家 かるゝ ほひこるへく

けさ ゆき

笋 雪の ちぐうん ふうそのふちつこゝなん まれうこゝに

梅

万十九 藤原永手朝臣 拾春上 そこでなるもの いぎされそのへ 赤人集 ふ万拾 雪よ あづらひ梅は花 ふ拾

後春上 冬嗣公 閑院太政大臣

なぎりふ ぶひつる 梅を梅の ふきうふ ふやまて 後 もとゝる あん

源常 東三條右大臣

第二巻出 梅は雪をうてうぐうん 花かゝるやと

けさ ゆき

古春上 ふるとあくとめぐれぬ物を梅の花いつの人 ぬ古 ゆうん

おあじ人

同 新撰 とふ古 ぐうん

梅の花 ふるこゝろ ぐうん

同 ふるのたべ 山城 ぐうん

梅は雪 ぐうん 梅 ぐうん

風春上 夫春三 家 ぐぐ 家夫 ぐうん

うめの花 ぐうん 三玄郎の山よ なまつ ぐうん 風家

家 梅の家 ぐぐ家 ぐうん

梅の家 ぐうん

家 ぐうん

家 みぐ家 ぐうん 梅の雪 雪と見ふるあくはなし

おれば

新後拾春下 藤原実方朝臣

ふるとあくとゝもめぐれぬ梅の花 ぐうん

後撰冬

ふるとめて なまつ ハめぐ

ぐうん ぐうん

拾春 家
梅ぐさふかうこそ白きもつれのたよりをそるべくある
おなじ

同雑春 家 ど家
このぞふるばかりつるあきてふたたび梅こそ春の老るべきなれ
うぐひすと春をあそぶ拾 うぐひすとあそぶ家

朗恒

古春上 新撰 金朗
春の梅の雪ちあやまり梅の花をそこそみくもの香やこのくるま
おなじ

新勅春上 古来集
いづくにかちるつるまきてをるまりうめの花もとをふるる白雪
おなじ

拾春 家 ち拾
ふるこるるちるもまがひぬ梅の花かくこそみてる物なりけり
おなじ

同朗 卅 家
ふるこるるちるめて梅をこそ
ぎんうめの花あやまり拾 ふり拾 春上ふるこそ

順 拾 ぬ
曽丹集
春をこめて咲ぬ梅ふりて
のくるそうひあ〜春のうぐこそ

古事記雄畧記云宇多氏物云玉子
宇多氏之 字以音 又万葉十一
若月清不見雲隠見欲宇多手比日
まこと新撰万葉ゐハ別様をウタテと
よめりとのつねあるぬ香の袖ふとも
みてるこふこと

万葉五 笠沙彌
阿乎夜奈義烏梅等能波奈乎遠理
可射之 下同

梅の花咲ぬるこそ〜れてまとうの家代ふべきまちのあそんと
おなじ

古春上 古本集
月ぬるのうぐそれこそ梅の花をうとるてぞ花をるべくうりきる
おなじ

後春上 家
うめの花をきばこそぶれぬ袖の匂ふ香ひいうつせ家 ひ後
おなじ

古春上 寛 新万 家
ぬしとてあるべき梅なる梅はうらうて白しの袖のとまるる
同 家
よそふの〜くるぞ梅の花あるぬを春ハ折てありける

万八 夫春三
梅の花をみて日ぐもの〜ぬ春ぬるもに
拾 上郎女

いせ

友宗

続古春上 代春上 春
[illegible]

古春上 朗家
[illegible]

夏 拾春 赤人集
[illegible]

[illegible]

万八 夫春三 又雑十三里
[illegible]

[illegible]

新千春上 清原元輔 貫之集
[illegible]

公忠集
[illegible]

此うた信明集にもあやまりあり

万葉十九 藤原永手朝臣
袖垂而伊射吾苑爾鶯乃木傳令落
梅花見爾

宣長云字考を考るに時ふることゝ
と出たれどつまるところ
べし 拾遺のおもてにいでゝとあ
るを神とゝもべし

此うたも貫之集にもあれど
後撰ふるまとあるを誤なるべし

後春上 家
[illegible]

拾物名 [illegible]
[illegible]

抑

顕宗紀
[illegible]

第四巳出
[illegible]

代春上 貫之集
[illegible]

風春中 貫之集
[illegible]

[illegible]

[illegible]

新勅春上 伊勢 朗亭 伊勢集 卅
[illegible]

[illegible]

[illegible]

新古春上　古本集
[illegible]

続後拾春下　亭家
[illegible]

遍昭

古春上貫之　新撰　朗貫之
[illegible]

後春中伊勢　家八　十之後家
[illegible]

へんぜう

新千春上へんぜう　貫之集
[illegible]

伊勢

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今春上　みつね

[illegible]

史記李廣傳云桃李不言下自成蹊

新撰和歌集

[illegible]

古本貫之集

[illegible]

続古春下　家

[illegible]

新撰　家

[illegible]

家

[illegible]

古春下

[illegible]

人ちとのぶ　躑躅

[illegible]

後春下

[illegible]

拾春　亭　新撰　金玉朗冊家

[illegible]

家

[illegible]

同　おもひ[illegible]家

[illegible]

同

[illegible]

拾遺雑下　恵慶法師

[illegible]

古本貫之集

[illegible]

古本朝恒集

[illegible]

古今賀　在原業平朝臣

[illegible]

古本集

[illegible]

後春下　古本集

[illegible]

拾雑春　家

[illegible]

古春下

[illegible]

新後拾春下　亭　家

[illegible]

躑躅　[illegible]

[illegible]

躑躅　[illegible]

[illegible]

躑躅　[illegible]

古今春上　よしみねのただみね

ちりぬれば　こころをぞ　ちる　ちる　あさ　あを

ゆふ　こそ　さくら　をぶ　おくら

此うたさくらを物の名とあり

古本集

櫻花のまちうけぬほやいまうふうて行てきぶれ古まほれ古てめ

友出

古春上　家　おほむらの古家　櫻ヲ変

いろもかも　なるあがくるまさくらめで　なる人でおくまうる

花條已出

久かたの　光さやかなる　さ　春の日に　さ　ぶいかく　春のちるらん

そせん

古春下　よしみねの家ロ

まてしいまちぐ　ぞ　ほまる　櫻あぶ　伊を　櫻ヲ　見ひまさ　ぬ

知彫ど

同　ぞうぐ　法師　素性集

いざ　櫻　ぶ　もちうん　ひとうう　あ　ぶ　人　ようきめ　ぬ　まん

れ　ぞ

第五已出

つねの　ぬ　人　ようう　ん　櫻　を　ぶ　ぞ　に　おて　ぶ　ぞ　に　さも

きのみち　も　本道男

真淵云此うた素性集も入まき此本ともかくのごとし　されば　ぞ　ぞ　の　ぶ　ぶ　ぞ　ぞ　ぞ

第一巻出

櫻花　春ごとに　咲くとは　見るも　人の心の　あらばこそ

伊勢

いせ

古春上　家

うつろひもおきふしさくらさくのちはさんぬるぞさくらまし

序

花ども　あくちくあんもの　櫻花　ちらくしく　つるとそれ

代春下　家　秋

風さそふ　櫻だに　心よりぞ　ちるに　すぎもてまのそで

業平

新古今春下　太上天皇

ちりぬるも　惜しとは　思ふ　櫻花　さきぬべしとは　あらぬものゆえ

古春上　伊家

けふこそは　あまたの年の　積もれども　櫻花　みまやの

人まろ

古本集

櫻花　ちりぬるかぜの　なごりにぞ　思ひ　人

おほ人

古春下　ふ家

すぎ玉ぬ　ちりぬべしとは　思ふ　櫻花　なごりにぞ　思ひ

同春上　新撰　伊家　金玉　朗廿

くらの山　ふるさと　櫻　さきぬべし　あらぬ世古伊家朗

万十六　童

妹が名は　かけてさくらの　ちりぬるや　さく万童

古物の品貫之

うつりけぬ　ぬのかさぬ　ぬのかさぬ　ぬのかさぬ

序家

櫻花　いでの人の　ねてもぬる　ほこそ序

櫻花　ちりぬるかぜの　なごりにぞ　思ひ

櫻花　ちりぬるかぜの　なごりにぞ　思ひ

此うつ櫻見をうゑ　ぶうゑさるあふ

ひもが名ふみ　ふうゑさるふ

本草和名云櫻桃和名波々加乃美

一名加尓波佐久良乃美とあるさと

和名抄ハ逝波佐久良とあハ加文

字のおちるゝやとも　ぶ

新撰万葉上

浅緑野邊之霞者裏輌已保礼手匂

布花櫻鉢

万葉五　葛井大夫

烏梅能波奈伊麻佐可利奈理意母

布度知加射之爾斯豆奈伊麻佐加

櫻花　ちりぬるかぜの　なごりにぞ　思ひ

利奈理

[illegible]

万葉十一　玉梓之道去夫利爾不思妹乎相見而戀比鳴

和名抄山谷類云峽考聲切韵云山間陜處也俗云加比乃

古春上　新撰　櫻花さかりにめぐりあひぬるかな

同春下　[illegible]

同春上　[illegible]

後撰春中　大將御息所

さくらさきにほふ[illegible]

同檜二　家　[illegible]

古本集　[illegible]

[illegible]

後撰春下　よしのゝ[illegible]

[illegible]

古春上　寛　新撰　家　櫻花[illegible]

續古春下　古本集　[illegible]

同戀二　是則　是則集　[illegible]

後春中　家　[illegible]

同　家　古本家持集　[illegible]

[illegible]

[illegible]

後拾遺春下　[illegible]　和泉式部

[illegible]

永久四年百首　兼昌

[illegible]

袖中抄巻三顕昭云本草[illegible]食療

[illegible]

躬恒集

[illegible]

万葉十

[illegible]

殖之秋萩花咲爾家里

古賀素性　新撰　金玉　躬恒集

[illegible]

万八赤人　新千春上

[illegible]

ふぢ

人麿

拾春[illegible]　近

[illegible]

夫春四花　近　[illegible]集

[illegible]

あのひと

古夏[illegible]　新撰　家

[illegible]

万八　古本家持集

[illegible]

同十九家持　夫春六　又雑

[illegible]

同　[illegible]藏息子繩書　拾夏六　夫春六　朝　[illegible]集

[illegible]

越中　十三朗

[illegible]

續古春下貫之　家朗

[illegible]

續朗

貫之

家

[illegible]

おぼろ

同

[illegible]

ねちふぢ

新古春下　新撰　家　河藤裏葉　新撰

[illegible]

河

[illegible]

躬恒

[illegible]

[illegible]

おほぢ

[illegible]

おほぢ

古春下 新撰 古本集

[illegible]

遍昭

同 同 家

[illegible]

枝ハ[illegible]も 古 新家

おほぢ人

後春下 [illegible] 続千春下 伊勢 伊勢集

我宿の[illegible]

[illegible]

万六 聖武帝御製

[illegible]

おほぢ[illegible]

[illegible]

家持集

たちばハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

此名猶考今按ずるに万葉六に橘本朝臣道復八禰所物乎曽念人爾不所知 右一首右大弁高橋安麿卿語云故豊島采女之作也と云々此らよく三方沙弥の歌に似たり左注に安麿とあるもよく合はずてもふに安麿とはあるべし

和名抄菓類云七巻食經云橙宅耕反和名安部太知波奈 似柚而小者也

袖中抄巻十三題部云ちひのこやでとは椎の木のちひさき枝とかやでおもぐ同考

新撰字鏡云檽山桑豆弥 桑 和名抄木類云唐韵云椿和名波木豆 木名也楊氏漢語抄云海石榴同和名上と云々されば海石榴はざくろ海石榴はつぞきあるべきを名のまぎらはしきにそれぞれ足誤まるべし椿の條にまた

うらを出せり

和名抄菓類云陸詞切韻云檎音離和名夜末之山梨也

契沖云万葉七に足病之山海石榴開八咲越とあり右の海石榴をざくろと云々誤りて山ざくろとかくべからず

本草和名云安石榴佐久呂 和名抄木類云唐韵云椿和名波木豆 木名也楊氏漢語抄云海石榴同和名上と云々されば安石榴はざくろ海石榴はつぞきあるべきを名のまぎらはしきにそれぞれ足誤まるべし椿の條にまた

うらを出せり

万葉十
小竹葉雨薄大礼零覆消名羽鴨將
忘云者益所念
袖中抄巻五題招云雪といそねよたゞ
もてれとくそもてまをとゆきと
さだれ　さゞら　同さゝ

李
やうもも

万九
園のさもゝは景ゝ庭もるさだれのいまだ降りこるうも

古物名貫之
いま葉ゐ美ゝ　あらふばうゝひまるものゝ形ばめて見ばゝあり

杏
かゝ桃　源宣父

同
杏
あふうもらのゝあらこそ世ゝ見れとうまへこそうまておもへば

胡桃
くるゝ　ほうゆき

杏
梨ようさゝ形ばゝ　あゝれば　胡桃
まくるゝもち物ゝるゝ　みける

第三巻出
すぎ
とがをゝ三輪の山本ゝくはとゝふゝきはせ杉たゝる門　みえ

拾雑戀家
いづもゝ　しとゝ拾
三輪の山ゝゝとゝんゝるゝ　杉ゝ　ぞゝ拾　杉ゝ　ぞゝ拾

此ゝゝ万葉を振之神杉神備而とあ
りゝフルノカミスギカミビテモとよあ
るゝゝゝこは左備而の左文字をお
とゝゝあゝ
神名帳云大和國山邊郡石上座布
留御魂神社
契沖云神あびの神と三輪とふ同
体ゝ杉は三輪の神木ゝて神のよ
ゝ　ゝるゝ又削ゝ杉もすれば
やゝてゝゝう杉ゝふゝ

万十　赤人集
ふゝるの神杉ゝゝゝを赤　杉ゝて　ゝ　ゝゝを赤　ゝゝ

人麿

同九
神あびのかゝう杉ゝゝる杉の見ゝゝるゝゝゝゝゝゝゝゝ

同十四　夫雜二山ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝと大ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ足柄山の杉ゝゝゝゝ　夫

檀
むろ

第五ヒ出
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

あふち地名あり和名抄に紀伊國在田郡英多とあり是あり

吉賀素性 拾秋恋拳 家持集 家

[illegible]

[illegible]

柱

後春上 貫之

[illegible]

万四 湯原王 新勅撰五 伊

[illegible]

かづらの木

万八 紀女郎 袖

[illegible]

同家持 夫雜上 [illegible]

[illegible]

あふち

[illegible]

つるゆき

類從本伊勢物語あふうつる男のまゝ

[illegible]

かづらの合歡の[illegible]

[illegible]

[illegible]

古今戀三

[illegible]

[illegible]

万[illegible]

[illegible]

万[illegible] 類從本赤人集

[illegible]

かし

後雜一 [illegible] 家

[illegible]

同雜三 敦忠 朝朝忠 朝忠集 古本敦忠集

[illegible]

くぬぎ

万四 大伴坂上郎女 夫雜上

[illegible]

きぐたち

[illegible]

椿

万七 [illegible] 夫雜上

[illegible]

同一 春日藏首老

[illegible]

和名抄木類本草云鈞樟一名烏樟 和名抄

契沖云俗[illegible]

[illegible]

契沖云をつきくる梅をあくまと
いふ万葉十八　栗田女王歌
都奇麻知豆伊敝爾波由可牟和我
佐世流安加良多知婆奈可氣尓見
要都追くるあくまとも嘉しそ
をづけるとら
このくま梅に読抄物に説くあり考ず
きく者きたく今は暮ぬ　もとゞ
まさる松の色あるよりて密勘か
あ飛ふ人あづて来つれたるものと
らぎかくいたち結くる菓の枝よつき
てくるまでおちぬ物あれば
とりのいつまれぬまふこそ
るゞざく

万十九
おく山のやつをよ梅つぢくふいくさねまさくもる友
やこのもち
おもゝ
ふくのやんをくの梅はたりくよくまくもつらめや梅てくる思
かゝくさ
おもゝ　藏
万廿　夫雜四野　又十一よくしぐ
いなびの野のつくがくもの時もあれど君をおもふ時さもあり
播磨
同十六　同　紬
たくまくの山の梅のふさおもてとくもかくくもねだけ人くも
大和　　万　　袖
古雜上よくしぐ
石上ふるくをもの郡のまくづふまくもんて言れあくん
ほくがくさ
万十九　童
氣せくづさくげてもるほくづふおくるおるおまき金まそ
傳未詳
やくもち

本草和名云厚朴一名厚皮和名保
保加之波
伊呂波字類抄云宛恰恰
契沖云いすくはくの物をも此梅ふり
又梅ぶどくもまきて生くもまきたれ
ばくくよめるや鏡すあれば椎の葉
ふかるくもくの又膳夫をくくまる
いひくひもの生くる器をもくまき
ふはくを古をくまれざる名く

同　万
よくべくぎの古ものきみよくまくもふせくの酒のもとくふぞ此行ぐい
なぐめがくさ
夫雜十一よくしぐ
人くるあぐめ梅くふるさくもくまねくまぞ古くくくくる
ほくしぐ
同春六よくもくぞ　　元　先
玉藻こうるわくの浦くくの花ふくめくくも
備前　　咲
人も
万九　夫春六よくくしぐ
ふそひまの路る坂山の石ほくぐ我は匂ふ妹は忘れん
たくく方　山城
出つくしぐ
古今戀五
よくくきくぐ
なくも梅ぶ岩くも梅は生ふくく
くくくくくくひばあそざくもあく
ほくもくくくくく

ひさぎ

拾遺四 夫雜上 伊 京人麻集
[illegible]

同十 赤人集
[illegible]

同七 夫雜上
[illegible]

後撰四 藤原忠房
[illegible]

[illegible]

[illegible]

万拾古夫
[illegible]

万廿 大原真人今城
[illegible]

[illegible]

和名抄鬱樹具云列子云詹何者善釣人也以獨繭絲為綸獨繭和名比岐藤遊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二月上旬の頃を生ひ出さ山毋の葉のめ〜三月花を咲く百合の花ゆゑたち山中を咲こうとこもりくこもりくとよび
ある万葉ゆてゝ古ろうとこもりくこの
花とよめるものは百合をこと古帖ゆかさ
〜〜〜〜て榎のあゝきゝハ緒巳
若仲云つまゝハ誠中の歌あるべ方
言あゝ〜されハ過渋渓埼見叢上
樹歌樹名都と自注ぞゝれさゝ」
又云さねさいろある本ゝもちゝ三
今案ぞるふ新撰古帖ゆさ歌きと
あり

万葉十四東歌
奈都素妣久宇奈加美我多能於伎
都渚爾布祢波等杼米牟佐欲布気
爾家里

おあご

いさのよ花ちまをこれバ祢をたひてまゆゝら〜神さびのろう 万九 そ方

さねき

杉形ご

同十 赤人集
まゝ杤のさねきの花 けゆ方 ちまぶ方 ちゝ赤 ちゝ赤 あわやま方

とゝ毋

同二号削旨 大雑八井 又土槌
いすゝをとゝふる雪もゆづるそのゝゝゆよりゝ 小万夫
古戀三よゝ人ゝば新撰
材ゝ雪ゝ系ゝ

ゆゝ山よ紅ゝ雪ゝ
毛戀四密峯
ゝ形ゝ
ゝ形ゝ

万七 大雑七 冩 ゝ方 ゝ方 下總
ゝ
後拾夏重之家
夏刈の玉江の芦を踏ゝ乱ゝ立ゝ形
越前

万葉本院侍従
後戀三
ゝ形ゝ
ゝ形ゝ
ゝ形ゝ
ゝ形ゝ

万葉本人丸集 大雑五池 ゝ方 ゝ方 ゝ方

あべらびたちめづ　拾遺物名ホ
をのよはまびあがったちてひぬ
ひの天命ふはまきもありりなど
ひのもちえくるもふべ

此うち新千載慶賀ホ　きのそうあき
くあくふひやもれり

つる

雲賀家
ひのあるあびく芦田鶴あのがとぶはるるやうぐらん
つせ家

おあ

代賀家
ちとせふとこぶきくあくよ芦たづのゆるるとる形る声のるるさ

古雑上寛平法皇　新撰　新朗
芦田鶴のたてるひのをとふくるよきて聞ぬ張うこそこんる
賀之集　八朗　おう朗
むゆてるる芦たちたづとたきうこうるゆぬをうこそみる

ふく

家
くゆまで命くるてる鶴あるみびつたづゆきうたをきこそまうこを
家

いせ

家
あふこのかくよもうるみるあるたづのきのゆるふはゆるるすれ
難ヲタ
くあびのきゆをるゆやさうぐらん芦の行れのどけうるあそ

万葉四
足引乃山鶴生有菅根乃懃見巻欲
君可聞
金明軍

古今戀一
あーづのさうぐ人のーーあるの
きうまぢ人をかくこひんとも
とも人きぐ

万工
てうるよきもおつけてうぐれるあづぐーうも思きーーうあび
同十五卅比大夫
たつきあれ芦をきてとびうるあるうぐし猶きあれど
芦田鶴のきむゆるするゆのねれ稀んぐうるぬたのまぐ

万六　續古雑中　金玉　夫雜兒　胡卅　古本集
紀伊
うるゆるあるーーあをきーーあびゆるるとる

人まゆる

同十一
芦田鶴のきそまふるるゆるるるるるるるるるるるるるるる
ぐ方　まんーあくこもたるるるる方

かりる

古秋上　ぬ古
いるるもゆるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
の古　古本集

ひるまるて　三ぐ

同ぐ人ぐび　新撰　京公忠集
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

人丸集

本朝文粹巻十一云重陽後朝同賦秋鴈櫓聲来應製　菅贈大相國

重陽之後翌日之夕秋鴈者月令之賓也櫓聲者風窓之聽也云云

藤原敦忠朝臣

後撰冬

後撰秋下

後撰秋下

古秋上

古秋上

後撰秋下

後撰秋下

後撰秋下

古秋上

古秋上

古秋上

古秋上

拾春貫之

同憲

古秋上

古秋上

古秋上

古秋上

古春上　新撰　家朗

[illegible]

後秋下　[illegible]人　後

[illegible]

[illegible]

人麿

[illegible]

万十　新古秋下　家　家持集

[illegible]

[illegible]

古秋上

[illegible]

新古秋下　[illegible]

[illegible]

万十九　家持　夫春五　かく　万夫

[illegible]

續後拾戀三　[illegible]　伊

[illegible]

同　[illegible]　業平　伊

[illegible]

新拾遺秋下

[illegible]

[illegible]

万葉十一

自高山出來水石觸破衣念妹不相夕者

又十

打靡春立如良志吾門乃柳之宇礼

鶯鳴都

月[illegible]

[illegible]

万十　風春上　夫春二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

古春下
[illegible]
同 古本集
[illegible]

同
[illegible]
同春上 新方 素性集
[illegible]
[illegible] 新方 素

第一已出
[illegible]
新拾雜上興風亭 雲春中 代春下
[illegible]
續古春下 在原元方

古春上 寛 新方 句
[illegible]

千里

[illegible] 新方 [illegible] 句
[illegible] 古

[illegible] 弾正忠紀秩範男

毛詩國風伐木篇云伐木丁々鳥鳴
嚶々出自幽谷遷于喬木
拾遺春 中納言朝忠
[illegible]

長谷雄ところんを長谷ハまつさ
[illegible]

後春上 伊勢集
[illegible]

同春
[illegible]
花條已出
[illegible]

古春上 新撰 催
[illegible]

同 誹諧
[illegible]

後春上 句 古今赤人集
[illegible]

[illegible]

古春上 新撰 新朗
[illegible]

二條のきさき 贈太政大臣 長良公御女

万十 赤人集
[illegible]

同 夫春二 [illegible]

同 続後拾遺春上 赤人集 赤続
[illegible]

同九 家持 夫春二
[illegible]

古本人丸集
[illegible]

同
[illegible]

万八 夫雑十 [illegible]
[illegible]

此うた流布本にあり　工本藏本にはなしおぼえがき

契沖云此うた大伴々の妻の身まうまき時勅使堅魚朝臣のよめるうたにより万葉左注なくふくれば[illegible]

同刀理宣令 同夏二 [illegible]
[illegible]

同巨堅魚朝臣
[illegible]

同 夫夏二 播磨
[illegible]

同
[illegible]

同
[illegible]

同九
[illegible]

同十九 拾夏
[illegible]

右宰帥大伴卿 従二位安麿卿男
大伴坂上郎女 家持妻

小治田廣瀬 傳未詳
[illegible]

此うたを源平盛衰記女院出家の條に女院の侍従の局に送られたる八重桜の歌とあるをそこなひて載せたるなり

万葉十
霍公鳥汝始音者於吾欲得五月之珠爾交而将貫

曽丹集
まくもやくくるのさくらふるさとく
いくそのうるをとこのれきめくん

新古夏よみ人しらず 朗
時なくあくの花の花のよるてあくるを見る人やたれしき

万八 新勅夏 夫木二 家持集 大和
かくばかりの岩根の杜は時なくあくの見るいつかまたん

同 藤原夫人 赤人集
そのくぎにいくあくあくるをおくあくを五月は玉ふあひぬまてふ

古夏貫之 寛 新万 新撰 卅朗
夏の杜はしのはるをとくれど郭公時ならぬ声のうとえ

拾夏貫之 家
時なくいくるる人うあくをあくして山ほとぎす来るよりたんぞ拾家

古夏貫之 類従本家持集
さくぐれのうるあくるを時なくいくるをとくるとるむ

見夏の山は花はしるきれぐあくるくるぎて来るるあう

むかうるあくるいくそのあくをあくるいくん時なくいくるの夏を

新拾夏貫之 代夏 家
月をぐるあくぐ見るて初めをけるさく時をくるこの

後夏貫之 家
花もあくう時をくいめるまでるるも行ぐ家 生よりるる

以上七首

後夏 家
木陰まくまくるまくあくも時なくるを初めるいつよ花うくさく

同 同
ほくくぐるまくるを言をるそあてあるめるそれく思ひ出のあれつ後 おくろくれつ家

五月 新撰 家
五月ぐるるまんの郭公まぐーきそのくをくるをやうぐや

いせ 三首

時 恒 いせくくて

後夏 拾夏 伊勢集
ふくをくるくるくるを時なくるを拾ふくめるくるまくるる

こうね

古夏
時なくるくれくるるくるくるの和の花ぐくるくるくるむ

忠こう

同 寛 新万 家
くるくるくるくれくるるのくるくるのくるをあるぐくや時なくるくぐに

おくせん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大和物語

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後春中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拂草紙云雪ハ[illegible]
李吟云[illegible]或説[illegible]
[illegible]
いろ
源氏若菜上云
[illegible]
いづくの[illegible]
河海抄[illegible]
信明集
[illegible]
源氏寄生巻云
[illegible]
若沖云[illegible]
此説[illegible]
蒙求難[illegible]
[illegible]
此[illegible]
[illegible]

[illegible]

河若菜
[illegible]

[illegible]

[illegible]

月令云孟春之月鴻雁來是月也玄鳥至 注云玄鳥燕也

本朝文粹卷十二源順朝臣
侍中亞將為撰和歌所別當御筆宣旨奉行文云左親衛藤亞將者當世之賢大夫也云云和歌所とは
ものふるとめてゝ也又
家長日記云建仁元年八月廿日
ものあるる二條殿の廣隆寺作あり
たゞ二間おち板じきふかうして
在とも かいろうふかうてものめてあり
しはつゝ しはつゝ
えもいはぬくもつきじ君が代の
ものぶかうゝおくふかき歌のうゝ
姓氏録云雄略天皇御世以天穀員
賜大連公奏曰衛門開闔之勢於職
已重若一身難堪
老子云愛民治國能無知乎天門開
闔能為雌乎
ものふ従四位上源朝臣の子孫
家長卿の子孫
大夫時長朝臣の男之

寛喜二年十二月十九日以入道右大弁光俊本重校了件本者家長朝臣本云〻

前和歌所開闔従四位上源朝臣在判

古今六帖拾遺

夫木抄春二　鶯　よみ人しらず

きゝなれぬ人のこゑぞ聞のはさぞ春よりなくとの
ものの聞まよひぬもはへぬ弱あまぶられとふ山城
いつしらとうぐひすみれば
まつみよりたゝもちつゝや山城の井ゝの山吹
うなるはさぞ聞ふり
性なるみぢの山田よまれ
かくもとふ小松の末勘
新風よりはひぐれて
ものみなれ在あきぐれの

同春三　春駒　同上

同春四　花　源信明朝臣

同春六　山吹　よみ人しらず

同春六　藤花　同上

同夏一　早苗　ちぐさ

同夏二　子規　よみ人しらず

同秋二　苅萱　同上

同秋二　槿花　同上

同秋三　鹿　よしの人丸

万八冊写真入　大和
うぐひすの聲なき秋の萩の花　ぬか
咲るあさる稲葉のくぼみつゝ　鹿よこの夕べきぬ
あきぎりのふけばうごくるいもの葉のくぼみて露を見ふるる

同秋三　秋田　同上

同上

同秋三　かりがね　同上

伊勢集　ひゝ伊
打なびくてもるつまとのゝひゝく時　稲葉を　ゑ伊　たまのゝざわ
人まぬ見ひきるぶ　駿河　たのそぶくるの　あ
ぬ　坂　おのゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

同冬二　千鳥　同上

同雑二　山　同上

同上

同上　素性法師

同雑三　橋　よしつぐ

同上　清正

同雑四　野　よしの人丸

むさし　那　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

大

[illegible]

河海抄標注　　井手左大臣

百八　續千雜上　夫雜五　佐保左大臣

[illegible]

同関屋

同松風

同初音　　枇杷皇太后宮

新十慶賀

[illegible]

同胡蝶

同藤袴葉

同若菜上

拾物名

[illegible]

同上

同夕霧

紀伊

[illegible]

同御法

同紅梅

貫之集

[illegible]

同宿木

新古戀五

[illegible]

歌林良材下

續古戀一　曾根好忠

[illegible]

同上

同上

[illegible]

うちに未熟なうちに世に出て風やうなどの世人のひ
こゝろとあるこゝろにも思ひ出なのこゝろ世の事ふ物のさ
えゝひとゝなれたるまゝにひをうもうるこゝろ八そたゝ
ふ物殺生なのこゝろ海ふ城光本ひろ本の魚てなく
あゝき風ふろ相こあふさゝふまゝふさるゝふいのこゝ魚
鬱憂さるゝふ十の畫乃標泊さて山本明清ふふ人
いゝまのこゝ屋ふと殺ふ道ふれさんかこゝく
世ゝ魚のこゝ悪なるとゝ世ゝさこゝのゝ人のゝ
かゝなるこゝのゝやゝ事世ゝるふふいゝ海を海なゝ
た奥なゝ本伐山ゝ如屋ゝふさゝふくこゝひこゝ

やうなるこの人はいとゆのそなはりて
ものしたまふ所おくゆかしきものなれ
ども又のうつくしうてゐあ
こゝあやしなるのおくゆかしきもとめられ
やうこの書のうつくしきひとふしに
一しのそとハはのいつきこのあるをこゝろのく
とゝ後のたゝ名をのこすべきいつれの人といふもかれ
ゆるされたゝこの人はいとゆかしくもの明清ハ
江門よりもれて出られ又ちくしに竹田のなるの一なるし
うとにはまきのれとまてこよおくられて母とゝに紀又なる松下
のなるのしやしなれ物語の母ふるひくなる
にのさ人山本佐兵衛のもとなるうつくしうとなるれ仕ふとよたくゝ
てゝなるよりされ氏を山むらひ字我藩を助よひ江門
なるもんの東よりもんるし水八号字東淡ふこの四とを
さきたのゝとるの筆きれるこの十りいるゝ世紀
筆畢あるも二つとて以ゆるれ大の人るのるゝ歌
よみ又つるかられさこのさくかるるき畫のやふ
さ奥ゝ筆てわるれ拙内よ拙ふとゝ色さくるよ
それのゝともかれなくゝ赤きてて所ふつくちとかて
りのゝゝなをゝこ学れよゝとり火をの仕て東の
あゝとるちりねゝ仕事のゝこのくとれくらやゝ

[illegible]

世よなのくにのうまれのはてくらの文とも表のさるかいそらび
なのれのもくつかつるものの[illegible]なるやうなる所ないるハあ
[illegible]
[illegible]
[illegible]